

子供の安全のための情報収集・発信に関するアンケート調査結果

【これまでの日常生活における子供の事故などの経験】

- 日常生活でのけがや事故など（病気を除く）による医療機関の受診を経験している回答者は、半数を超えた（56.1%）。
- 受診時の事故の内容は、「外出時の転倒・転落」（32.0%）が最も多く、次いで「普段の遊びでの事故」（30.1%）、「家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）」（27.0%）、「スポーツ・学校活動での事故」（21.3%）であった。
- 事故時の子供の年齢は、「3歳」（23.8%）が最も多く、次いで「2歳」（22.8%）であった（「小学1～3年生」を除く）。
- 医療機関の受診に至った日常生活でのけがや事故は乳児期から学齢期まで活動範囲の広がりに応じて変化が見られるものの、家庭内での転倒・転落（ベランダ・窓以外）は学齢児童でも2割以上が経験している。
- 子供の行動でヒヤッとしたり、危なかった経験している回答者は、7割を超えた（74.5%）。
- ヒヤッとしたり、危なかった経験の内容は、「外出時の転倒・転落」（26.1%）、「手や指などを挟む」（25.8%）、「普段の遊びでの事故」（25.4%）、「家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）」（24.2%）であった。
- 日常生活でのけがや事故など（病気を除く）で医療機関を受診、またはヒヤッとしたり、危なかったことを経験している回答者は8割を超えた（82.6%）。
- 子供の事故防止に役立つと思うことは、「保護者への注意喚起」（64.4%）が最も多く、次いで「保育園・幼稚園・学校での安全管理の推進」（47.5%）、「子供の安全性を考慮した商品開発」（46.9%）、「子供の事故に関する情報の公開」（43.0%）であった。最も役に立つと思うものとは、割合や順位が異なる結果となった。

【子供の事故に関する保護者の情報収集の実態】

- 日常生活における事故防止やけがについて欲しい情報は、「実際の事故事例」（59.5%）が最も多く、次いで「安全対策、事故防止のポイント」（55.3%）、「けがに対する応急処置、対処方法」（54.6%）であった。
- 事故防止やけがの情報の入手は、「関係するメールマガジンや通知、ニュースなどを見たタイミングで入手している」（40.0%）が最も多く、次いで「事故が起きてからはじめて、情報を入手しはじめる」（29.8%）、「日常的に自ら積極的に情報を入手している」（29.6%）であった。
- けがや事故にあったときに欲しい情報は「けがに対する応急処置、対処方法」（62.4%）が最も多く、次いで「病院などの医療機関の情報」（46.9%）、「実際の事故事例」（41.2%）、「安全対策、事故防止のポイント」（41.0%）であった。特に子供の年齢が低いほどその傾向が見られる。

- 情報の入手先は、「インターネット」(66.8%)が最も多く、次いで「家族・友人・知人」(41.1%)、「テレビ・ラジオの報道」(40.5%)であった。また、「子供の安全に関する情報を見聞きすることはない」は11.9%であった。
- 「インターネット」から情報を入手する回答者の端末は、8割近く(79.6%)がスマートフォンであった。
- 情報の入手先は、「インターネットのニュース」(59.9%)が最も多く、次いで「子育てに関する情報サイト」(39.1%)、「Twitter」(28.3%)、「Instagram」(24.9%)であった。
- 信頼(参考に)している情報は、「家族・友人・知人などの発信」(46.3%)の次に、「国や自治体など行政の発信」(35.7%)による発信が多い結果となった。
- 情報を信頼(参考に)するにあたり、重視するものは、「内容の合理性」(72.0%)が最も多く、次いで「発信者、発信する企業・団体」(38.4%)、「国や自治体など行政からの発信」(34.9%)であったが、最も重視するものは、割合や順位が異なる結果となった。

【子供の事故に関する保護者からの情報発信の実態】

- 子供が事故にあったり、あいそうになった時、関係先への報告は、「全くしない」(45.2%)、「することがある」(31.4%)、「必ずする」(23.2%)であった。一方、SNSなどの発信は、「全くしない」(65.5%)、「することがある」(22.8%)、「必ずする」(11.5%)で、報告に比べて発信する割合の方が小さい傾向であった。
- けがや事故の経験に関する報告や発信の経験は、医療機関を受診している回答者ほど多い。
- 報告を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の報告先は、「メーカー」(53.3%)が最も多く、次いで「病院やクリニックなどの医療機関」(48.7%)、「販売店、インターネットモール」(30.6%)であった。
- 報告を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の理由は、「報告すれば商品が改善される可能性があるから」(64.9%)が最も多く、次いで「事故にあったのは商品や販売元に原因があると思うから」(36.7%)、「事故をひき起こした商品や販売元に対して不満があるから」(21.1%)であった。
- 報告を「全くしない」の回答者のしない(しなかった)理由は、「報告するまでのことではない、大した事故ではないから」(37.2%)、「事故に遭ったのは保護者の不注意(責任)だから」(37.0%)とほぼ同数となり、「特に理由はない」が29.6%であった。
- 発信を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の発信先は、「自分のSNS、動画配信サービス、ウェブサイト」(63.6%)、「自分以外のSNS、ウェブサイトなど」(45.1%)であった。
- 発信を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の発信する内容については、「事故内容」(73.2%)が最も多く、次いで「事故時の商品の写真」(32.6%)、「事故時のお子さんの写真」(20.7%)であった。

- 発信を「必ずする」、「することがある」、「その他」の回答者の発信（した）理由は、「発信することで商品が改善される可能性があるから」（55.7%）が最も多く、次いで「他の子育て中の方に伝えたいから」（39.9%）、「事故を引き起こした商品や販売元に対する不満を共有したいから」（27.0%）であった。
- 発信を「全くしない」の回答者の発信しない（しなかった）理由は、「SNSは閲覧のみで発信はしないから」（28.1%）、「発信するまでのことではない、大した事故ではないから」（26.0%）、「特に理由はない」（25.4%）とほぼ同数となった。

【行政・事業者団体による主要なウェブサイトなどの認知度】

- 「東京暮らしWEB」、「東京都消費生活行政 Twitter」、「東京都消費生活 Facebook」とも、約8割の回答者が「知らない」とのことであった。
- 「東京暮らしWEB」を閲覧したことがある回答者のうち、「くらしの安全」サイトの認知度は9割弱で、契機は「検索サイトで検索した結果で」（50.5%）、「消費生活行政 Twitter のリンクから」（30.4%）、「広報紙「広報東京都」を見て」（28.5%）であった。
- その他の行政機関や事業者の子供の事故防止や安全に関するウェブサイトや SNS の認知度は低く、知っていてよく見ている割合は約5%であり、8割近くの回答者が「知らない」と回答した。

【構築中のプラットフォームの評価】

- 構築中のプラットフォームに対する評価は、『また見たい』（73.6%）、内容・コンテンツが『充実している』（70.3%）、デザイン・レイアウトが『分かりやすい』（73.7%）と7割超の回答者がプラットフォームについて肯定的に評価している。一方で、サイトのことを忘れてしまうとの意見があった。
- 情報が『探しやすい』は66.8%と他の項目と相対的に見てやや低い評価となっている。「検索欄が見つけられない」や「スクロールが縦に長い」との意見があった。
- 「ひやっとしたよ」、「けがをしたよ」などの平易な表現に関する好意的な評価がある一方で「Safe Goods」など英語表記が時折混じり意味合いが伝わりにくいという意見があった。
- 『報告したい』は56.7%と5割を上回っている。投稿の理由に「みんなの役に立つため」と類する意見が多かった。

第1 調査概要

子供の事故防止に関する消費者（保護者）の情報収集や情報提供の実態および、子供の事故防止のためのプラットフォームに関する意見を聴取し改良のための参考資料とする。

1 調査設計

(1) 調査対象

東京都に居住し、0歳から12歳までの子供を育てている20代から40代までの男女

(2) 調査件数

3,000件 ※構成は下表の通り

(3) 調査方法

Webを利用したインターネットアンケート調査

(4) 調査期間

令和4年9月26日（月曜日）から10月2日（日曜日）まで 計7日間

2 サンプル構成

(1) 回答者性別

	回答数	回答割合
合計	3,000	100.0%
男性	1,500	50.0%
女性	1,500	50.0%

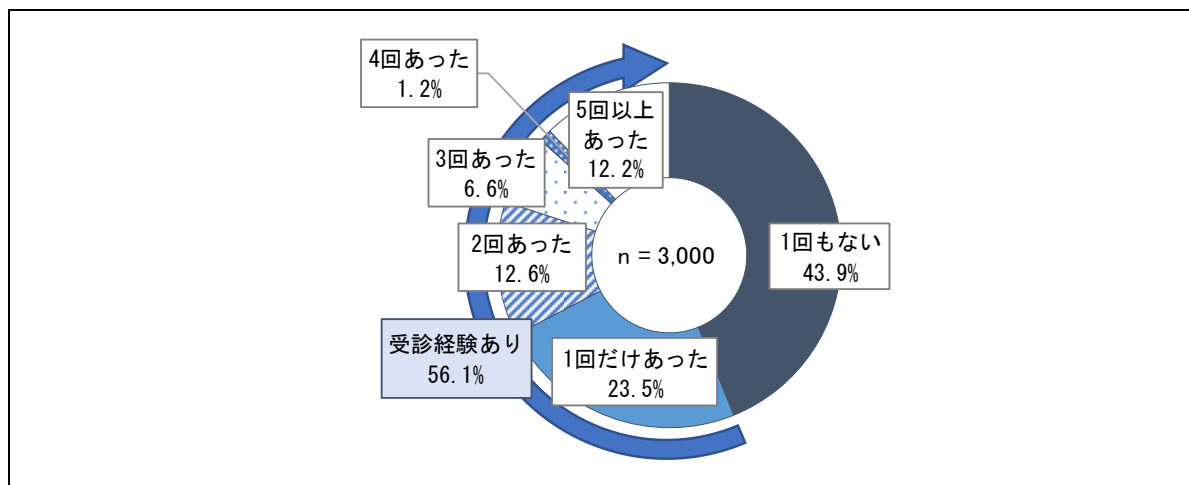
(2) 末子性別年齢

	回答数	回答割合
男児 0歳	115	3.8%
1歳	115	3.8%
2歳	116	3.9%
3歳	116	3.9%
4歳	116	3.9%
5歳	115	3.8%
6歳	116	3.9%
7歳	116	3.9%
8歳	115	3.8%
9歳	115	3.8%
10歳	115	3.8%
11歳	115	3.8%
12歳	115	3.8%

	回答数	回答割合
女兒 0歳	115	3.8%
1歳	115	3.8%
2歳	116	3.9%
3歳	116	3.9%
4歳	116	3.9%
5歳	115	3.8%
6歳	116	3.9%
7歳	116	3.9%
8歳	115	3.8%
9歳	115	3.8%
10歳	115	3.8%
11歳	115	3.8%
12歳	115	3.8%
合計	3,000	100.0%

第2 調査結果

1 これまでの日常生活における子供の事故などの経験



図表 1-1 医療機関の受診経験（単一回答）Q1

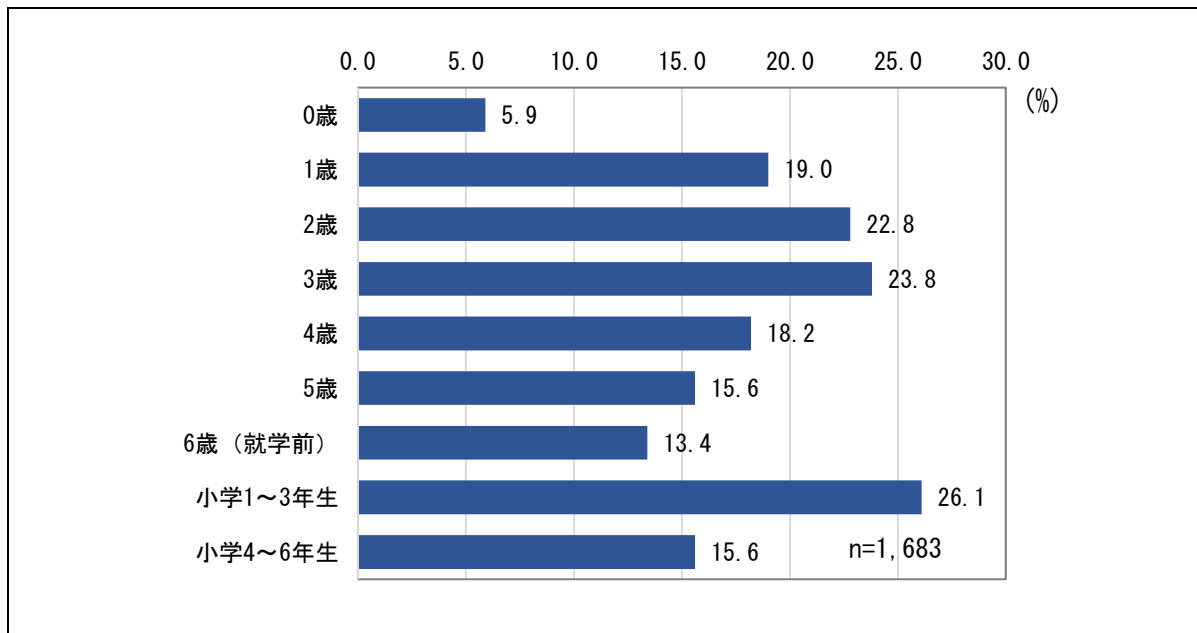
日常生活での子供のけがや事故などによる医療機関の受診の経験は、「1回もない」が43.9%であることから、56.1%は経験があることがわかった。受診の回数は「1回だけあった」が23.5%と最も多く、次いで「2回あった」が12.6%であったが、「5回以上あった」も12.2%であった。

		(%)	
全体 (n=1,683)	100.0	食べ物やおもちゃなどでの窒息(気管に入る)	4.0
外出時の転倒・転落	32.0	ボタン電池、磁石などの製品や医薬品の誤飲	3.9
普段の遊びでの事故	30.1	洗濯機など狭いところに閉じ込められることによる窒息	2.9
家庭内での転倒・転落(ベランダ、窓以外)	27.0	ひもやリボン、ブラインドのコードなどで首が締まることによる窒息	2.3
スポーツ・学校活動での事故	21.3	就寝時の窒息	1.7
手や指など体の一部を挟む	11.5	自動車事故(車に轢かれるなど)	1.7
熱湯や高温の製品によるやけど	9.5	ベランダ、窓等からの転落	1.2
自転車事故(子供が自ら運転した時)	8.7	自動車事故(車内での事故)	1.1
刃物など尖ったもので切る	5.8	海、川、プール、ため池などで溺れる	0.9
尖った物が刺さる	4.5	入浴時など家庭内で溺れる	0.4
自転車事故(保護者が子供を乗せた時)	4.2	その他	7.0

図表 1-2 受診時の事故内容（複数回答）Q2

「医療機関を受診したことがある」¹回答者の受診時の事故の具体的な内容は、「外出時の転倒・転落」が 32.0%と最も多く、次いで「普段の遊びでの事故（友達とぶつかる、ブランコから落ちる等）」が 30.1%、「家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）」が 27.0%、「スポーツ・学校活動での事故（鉄棒から落ちる、サッカーゴールにぶつかる等）」が 21.3%を占めた。

¹ 『医療機関を受診したことがある』:Q1にて「1回だけあった」～「5回以上あった」のいずれかを選択した回答者



図表 1-3 事故時の子供の年齢（複数回答）Q3

事故時の子供の年齢は、次いで「3歳」が23.8%と最も多く、次いで「2歳」が22.8%であった（多いが、年齢の内訳が不明の「小学1～3年生」を除く。）。

図表 1-4 事故の内容と事故時の年齢 Q2×Q3

0歳 (n=99)			1歳 (n=320)			2歳 (n=384)		
1	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	55.6	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	46.6	外出時の転倒・転落	40.4		
2	外出時の転倒・転落	29.3	外出時の転倒・転落	30.9	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	39.8		
3	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	29.3	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	26.3	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	31.0		
4	熱湯や高温の製品に よるやけど	17.2	手や指など体の一部 を挟む	19.4	手や指など体の一部 を挟む	16.9		
5	手や指など体の一部 を挟む	16.2	熱湯や高温の製品に よるやけど	14.4	熱湯や高温の製品に よるやけど	14.6		

3歳 (n=400)			4歳 (n=307)			5歳 (n=262)		
1	外出時の転倒・転落	41.8	外出時の転倒・転落	46.3	外出時の転倒・転落	46.2		
2	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	38.3	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	38.8	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	45.4		
3	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	31.5	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	34.2	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	34.7		
4	手や指など体の一部 を挟む	18.5	スポーツ・学校活動 での事故(鉄棒から 落ちる、サッカーゴ ールにぶつかる等)	25.4	スポーツ・学校活動 での事故(鉄棒から 落ちる、サッカーゴ ールにぶつかる等)	30.9		
5	スポーツ・学校活動 での事故(鉄棒から 落ちる、サッカーゴ ールにぶつかる等)	18.0	手や指など体の一部 を挟む	19.9	手や指など体の一部 を挟む	20.2		

6歳(就学前) (n=226)			小学1~3年生 (n=440)			小学4~6年生 (n=263)		
1	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	50.4	スポーツ・学校活動で の事故(鉄棒から落ち る、サッカーゴールに ぶつかる等)	46.4	スポーツ・学校活動 での事故(鉄棒から 落ちる、サッカーゴ ールにぶつかる等)	61.6		
2	外出時の転倒・転落	43.8	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	45.7	外出時の転倒・転落	39.2		
3	スポーツ・学校活動で の事故(鉄棒から落ち る、サッカーゴールに ぶつかる等)	41.6	外出時の転倒・転落	45.0	普段の遊びでの事故 (友達とぶつかる、ブ ランコから落ちる等)	38.8		
4	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	31.0	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	25.0	家庭内での転倒・転落 (ベランダ、窓以外)	23.2		
5	手や指など体の一部 を挟む	17.3	自転車事故(子供が 自ら運転した時)	16.8	自転車事故(子供が 自ら運転した時)	21.7		

事故の内容（Q2）と事故時の年齢（Q3）について、年齢ごとに割合の高い事故内容をまとめた結果を図表 1-4 に示す。0 歳の乳児期と 1 歳では「家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）」、2 歳から 5 歳では「外出時の転倒・転落」、6 歳（就学前）では「普通の遊びでの事故（友達とぶつかる、ブランコから落ちる等）」、小学生以降では「スポーツ・学校活動での事故（鉄棒から落ちる、サッカーゴールにぶつかる等）」が最も多くなっている。子供の活動範囲の広がりから、けがや事故の起きる場面に変化が見られる。

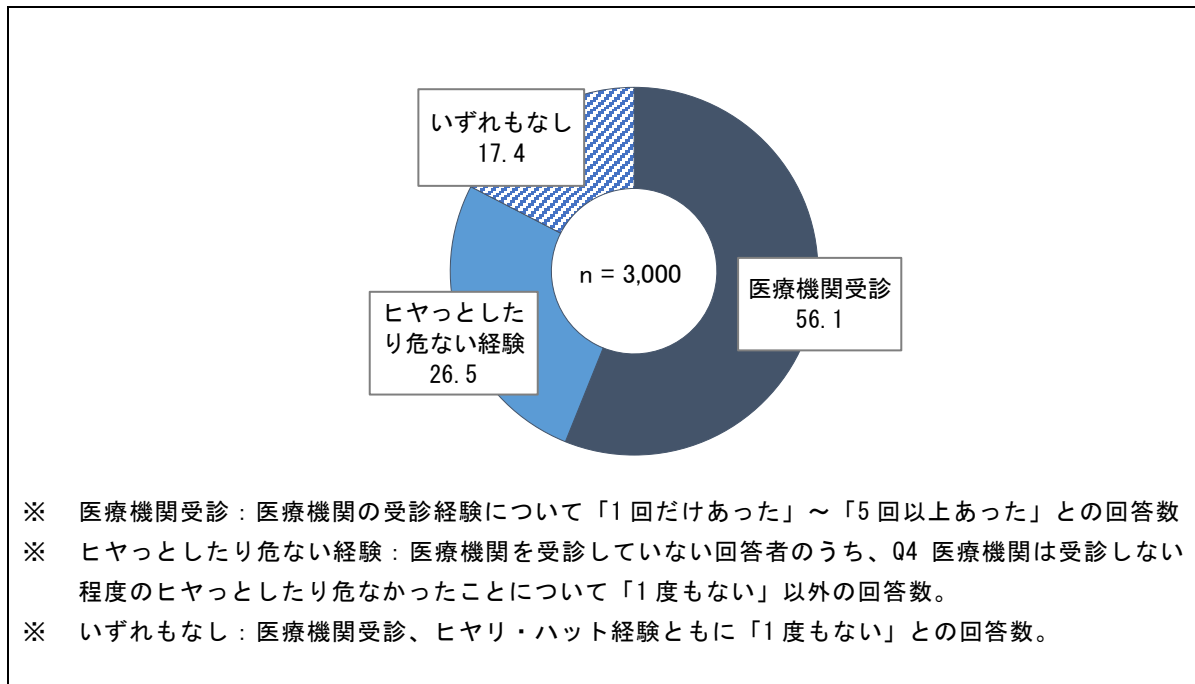
一方で「家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）」は学齢児童でも 2 割以上見られる。

		(%)
全体 (n=3,000)	100.0	入浴時など家庭内で溺れる 5.2
外出時の転倒・転落	26.1	尖った物が刺さる 4.5
手や指などを挟む	25.8	ひもやリボン、ブラインドのコードなどで首が締まる 4.4
普通の遊びでの事故（友達とぶつかる、ブランコから落ちる等）	25.4	ボタン電池、磁石など製品や医薬品の誤飲 4.3
家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）	24.2	就寝時の窒息 3.7
自転車に保護者が子供を乗せた時	14.3	海、川、プール、ため池などで溺れる 3.5
自転車をおもちゃなどが気管に入る	14.1	自動車に轢かれる 3.4
食べ物やおもちゃなどが気管に入る	10.3	ベランダ、窓等からの転落 2.4
熱湯や高温の製品によるやけど	9.2	自動車の車内 2.0
スポーツ・学校活動での事故（鉄棒から落ちる、サッカーゴールにぶつかる等）	9.2	洗濯機など狭いところに閉じ込められる 1.9
刃物など尖ったもので切る	5.3	その他 1.4
		1度もない 25.5

図表 1-5 子供の行動でのヒヤリ・ハット経験（複数回答）Q4

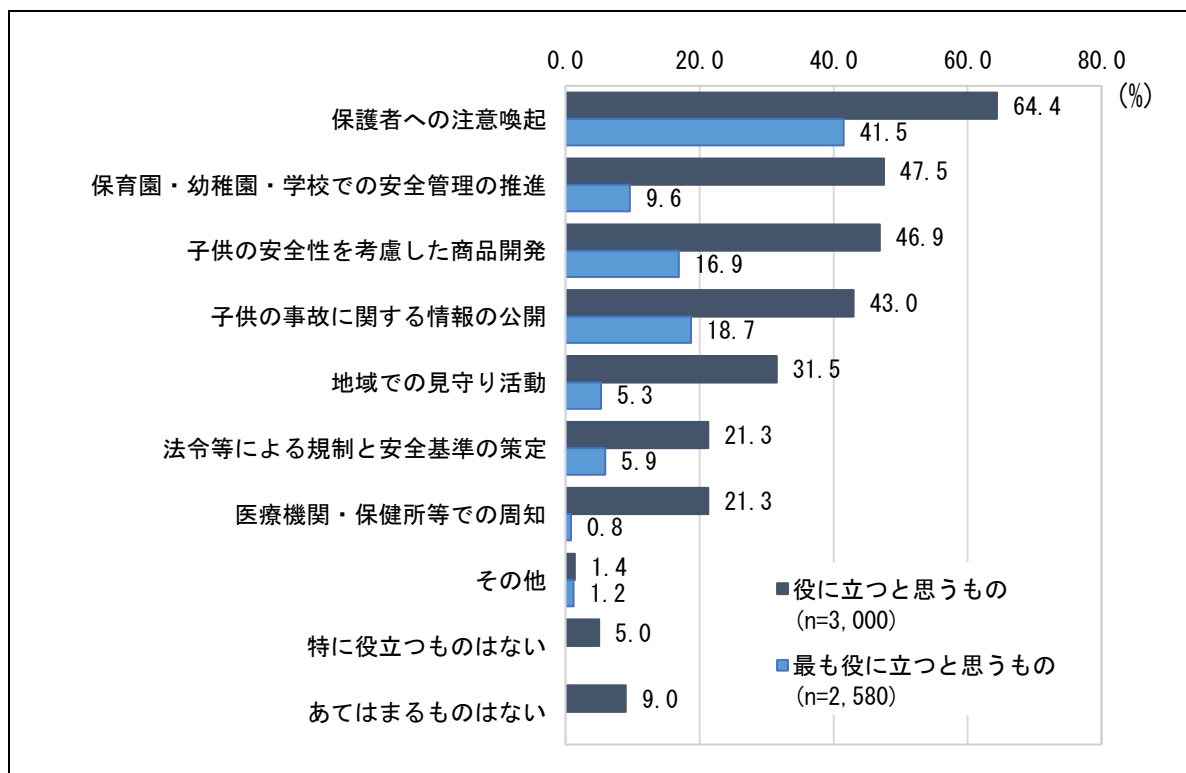
これまでの子供の行動でヒヤッとしたり、危なかった経験（医療機関は受診しない程度）は、「1 度もない」の 25.5%を除くと、74.5%が経験していた。

「外出時の転倒・転落」が 26.1%と最も多く、次いで「手や指などを挟む」が 25.8%、「普通の遊びでの事故（友達とぶつかる、ブランコから落ちる等）」が 25.4%、「家庭内での転倒・転落（ベランダ、窓以外）」が 24.2%であった。



図表 1-6 これまでの子供の事故などの経験 Q1×Q4

これまでの子供の事故などの経験について医療機関受診(Q1)およびヒヤリ・ハット経験(Q4)の回答者数をまとめたところ、日常生活でのけがや事故など（病気を除く）で医療機関を受診した経験があるとの回答は56.1%、医療機関を受診したことはないが、ヒヤッとしたり、危ない経験があるとの回答は26.5%であり、けがや事故の経験がある回答は82.6%と8割を超えている。



図表 1-7 子供の事故防止を進めるために役立つこと Q5Q6

子供の事故防止を進めるために役立つと思うことについては、「保護者への注意喚起」が 64.4%と最も多く、次いで「保育園・幼稚園・学校での安全管理の推進」が 47.5%、「子供の安全性を考慮した商品開発」が 46.9%、「子供の事故に関する情報の公開」が 43.0%であった。

複数の項目を選択した回答者に対し、この中で最も役に立つと思うものについて聞いたところ、「保護者への注意喚起」が 41.5%と最も多く、次いで「子供の事故に関する情報の公開」が 18.7%、「子供の安全性を考慮した商品開発」が 16.9%、「保育園・幼稚園・学校での安全管理の推進」が 9.6%と、割合や順位が異なる結果となった。

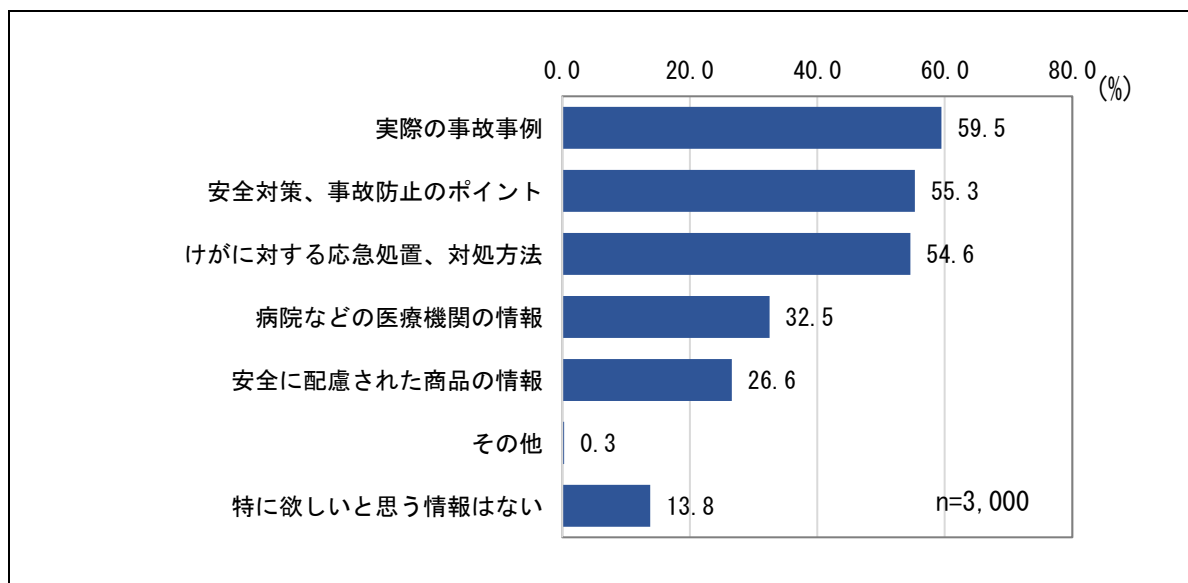
【主な自由記述】

Q2 医療機関受診経験者に) どのような事故でしたか。	
脱臼	散歩中に手を繋いでいたところ、子供が面白がって親の手にぶら下がっていたら肘が軽く脱臼(肘内障)した。
脱臼	手を引っ張ったら腕が抜けた。
異物	消毒スプレーを目にかける。
異物	おもちゃを鼻の中に入れて取れなくなった。
異物	マスクのゴムの留め具を鼻に詰め取れなくなった。
衝突	お風呂場で滑ってドアレールの所に頭をぶつけて切った。
衝突	室内で転んでテーブルの角に歯をぶつけた。
衝突	飲食店の椅子から転んで、荷物置き鉄板に頭をぶつけ7針縫った。

Q4 これまでにお子さんの行動(兄弟姉妹を含む)で、ヒヤッとしたり、危なかったこと(医療機関は受診しない程度)はありましたか。	
転落	階段で転落した。
衝突	転んで角などにぶつける。
衝突	ガラス窓につっこんだ。
衝突	自転車とぶつかる。
衝突	車にひかれそうになった、よそ見して走ってよその家のポストにぶつかった。
誤飲	イヤホンのキャップの誤飲
異物	ビーズを鼻に入れて、なかなか取れず出血した。

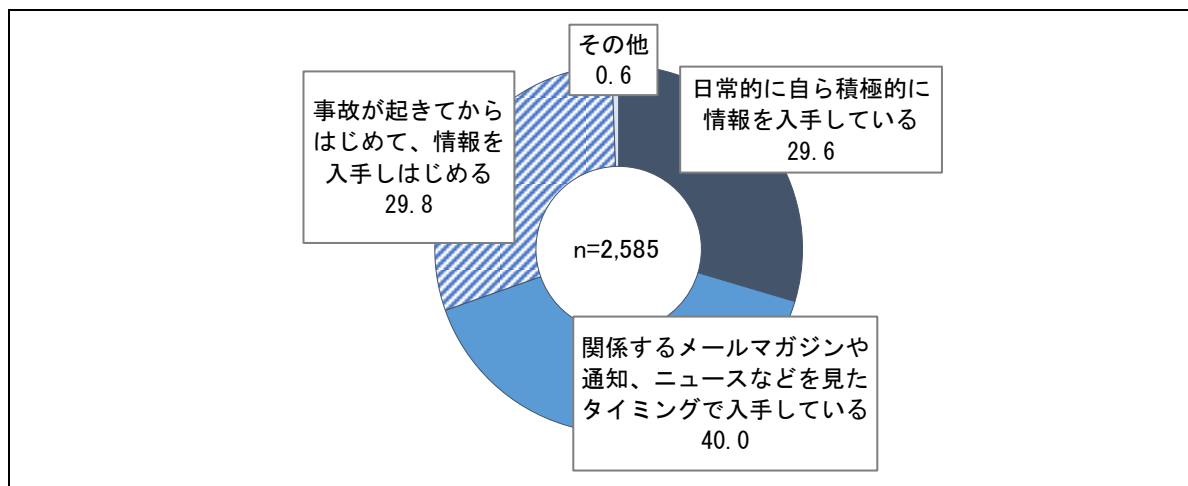
Q5 あなたは、子供の事故防止を進めるために何が役立つと思いますか。	
講習・教育	学校等での課外講習
講習・教育	自転車に乗り始めた子供を対象とした乗り方教室
講習・教育	子供への安全講習的なもの
講習・教育	親はもちろん、通っている園や学校での見守りや日頃から注意や話をして本人や教育者保育者の協力が必要。
インフラ整備	ガードレールなどインフラ整備
インフラ整備	道路、歩道の整備
インフラ整備	行政による公園遊具などの点検修理
保護者責任	親が常に近くで見守る
保護者責任	他人を頼るのでなく、親自身の安全管理
保護者責任	夫婦での危険についての話し合い

2 子供の事故に関する保護者の情報収集の実態



図表 2-1 子供の事故防止やけがに関して欲しい情報（複数回答）Q7

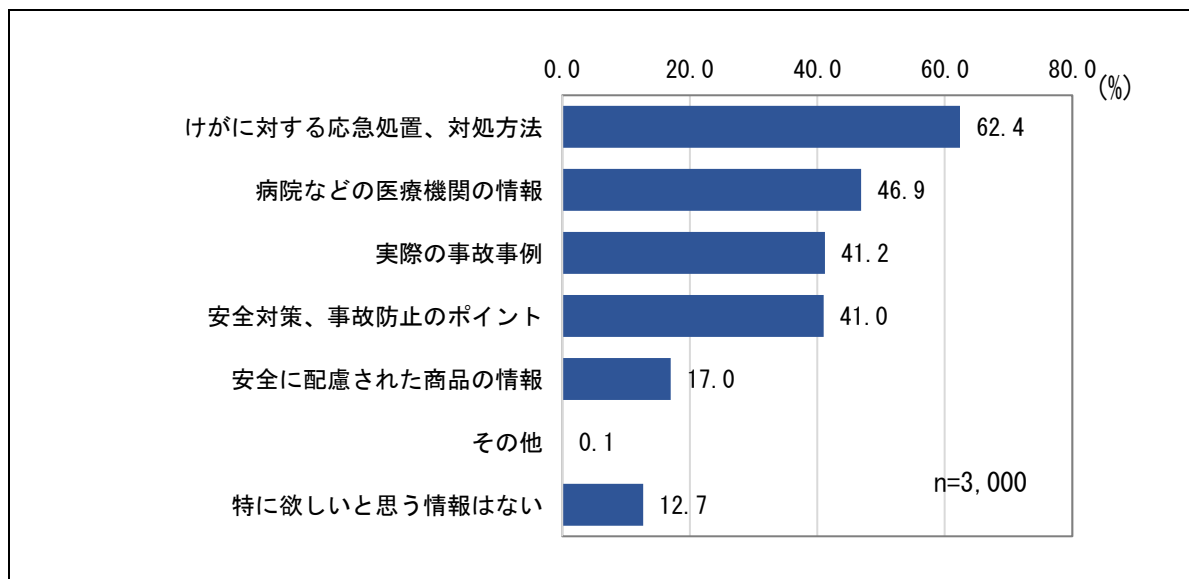
日常生活における子供の事故防止やけがについて欲しい情報については、「実際の事故事例」が 59.5%と最も多く、次いで「安全対策、事故防止のポイント」が 55.3%、「けがに対する応急処置、対処方法」が 54.6%を占めた。



図表 2-2 子供の事故防止やけがの情報の入手時期（単一回答）Q8

『欲しい情報がある』²回答者の、日常生活における子供の事故防止やけがについて、情報を入手するタイミングは、「関係するメールマガジンや通知、ニュースなどを見たタイミングで入手している」が 40.0%と最も多く、次いで「事故が起きてからはじめて、情報を入手し始める」が 29.8%、「日常的に自ら積極的に情報を入手している」が 29.6%であった。

² 『欲しい情報がある』：Q7 で「特に欲しいと思うものはない」以外を選択した回答者。



図表 2-3 子供が実際に事故にあったり、けがをした時に欲しい情報（複数回答）Q9

子供が実際に事故にあったり、けがをした時に欲しい情報については、「けがに対する応急処置、対処方法」が 62.4%と最も多く、次いで「病院などの医療機関の情報」が 46.9%、「実際の事故事例」が 41.2%、「安全対策、事故防止のポイント」が 41.0%であった。

図表 2-4 事故やけがをした時必要な情報 SC5×Q9

	急処置、 けがに対する 対処方法	機 関 の 情 報	病 院 な ど の 医 療	実 際 の 事 故 事 例	止 の ポ イ ン ト	安 全 対 策 、 事 故 防 止 の ポ イ ン ト	安 全 に 配 慮 さ れ た 商 品 の 情 報	安 全 に 配 慮 さ れ た 商 品 の 情 報	そ の 他	特 に 欲 し い と 思 う 情 報 は な い
全体 (n=3000)	62.4	46.9	41.2	41.0	17.0	0.1	12.7			
乳児 (0歳) (n=230)	71.3	52.6	43.0	48.7	24.3	0.0	10.9			
幼児 (1~2歳) (n=462)	66.9	47.0	44.4	43.7	18.6	0.0	11.0			
幼児 (3~5歳) (n=694)	63.0	49.4	44.5	44.2	18.9	0.3	11.1			
学齢児童 (8歳以下) (n=694)	60.4	43.9	39.8	40.6	15.4	0.0	13.5			
学齢児童 (9歳以上) (n=920)	59.0	45.9	37.8	35.4	14.0	0.0	14.7			

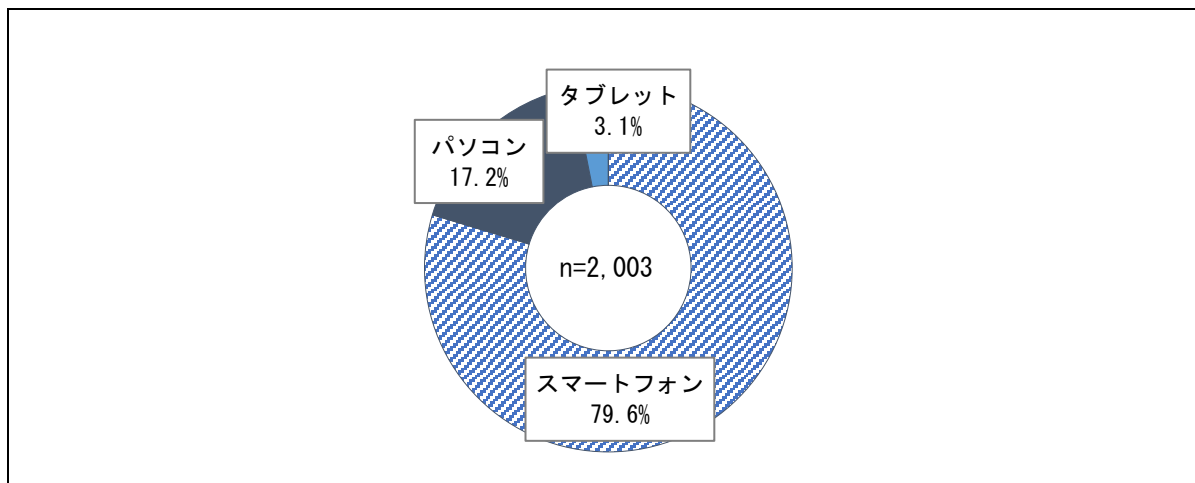
※年齢区分は末子年齢によって分類

実際に事故にあったり、けがをした時に欲しい情報について末子の年齢別に見ると、末子の年齢区分がいくつの場合も「けがに対する応急処置、対処方法」との回答が最も多く、特に末子が「乳児 (0歳)」では 71.3%と 7割に達する。

		(%)	
全体 (n=3,000)	100.0	新聞・雑誌	12.7
インターネット (SNS や関係するウェブサイト、ブログなど)	66.8	行政 (母子健康手帳、広報誌、ポスター、ウェブサイト等)	10.9
家族・友人・知人	41.1	保健所、保健センター (乳幼児健診等)	10.0
テレビ・ラジオの報道	40.5	事業者 (メーカーのウェブサイトや商品の取扱説明書、お客様センター等)	5.8
保育園・幼稚園・学校	29.1	消費生活センター	3.5
小児科、産婦人科など医療機関	20.6	その他	0.1
育児に関する書籍・雑誌	17.9	子供の安全に関する情報を見聞きすることはない	11.9

図表 2-5 子供の事故防止に関する情報の入手先 (複数回答) Q10

子供の事故防止に関する情報の入手先は、「インターネット (SNS や関係するウェブサイト、ブログなど)」が 66.8% と最も多く、次いで「家族・友人・知人」が 41.1%、「テレビ・ラジオの報道」が 40.5% であった。また、「子供の安全に関する情報を見聞きすることはない」は 11.9% であった。



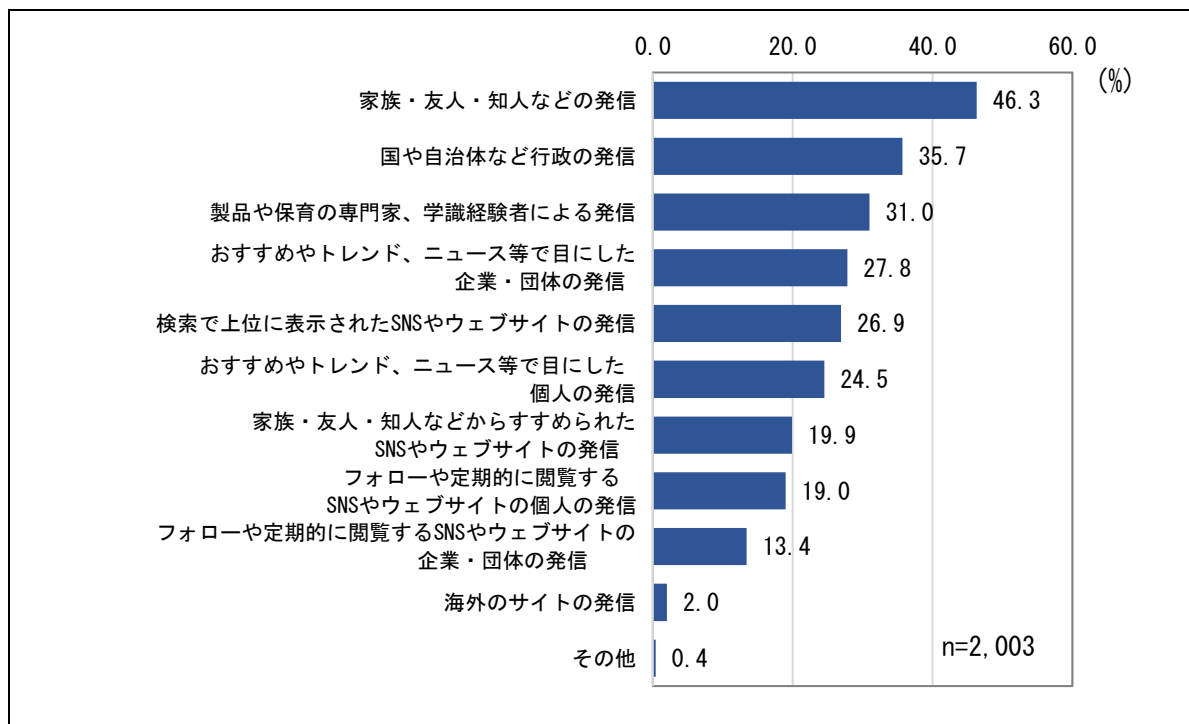
図表 2-6 インターネットからの情報入手時の端末 (単一回答) Q11

Q10 で「インターネット (SNS や関係するウェブサイト、ブログなど)」から情報を入手すると回答した人の情報入手時の端末は、「スマートフォン」が 79.6% と最も多く、次いで「パソコン」が 17.2%、「タブレット」が 3.1%、と 8 割近くがスマートフォンであった。

		(%)	
全体 (n=2,003)	100.0	Facebook	10.2
インターネットのニュース	59.9	事業者(メーカーや販売事業者)のウェブサイト	8.7
子育てに関する情報サイト	39.1	メール配信サービス	7.3
Twitter	28.3	note、ブログ	5.5
Instagram	24.9	TikTok	4.3
LINE	22.7	Youtube、TikTok以外の動画配信	2.5
Youtube	20.0	Pinterest	1.4
子育てに関するアプリ	13.8	pixiv	1.0
行政のウェブサイト	13.2	その他	0.9

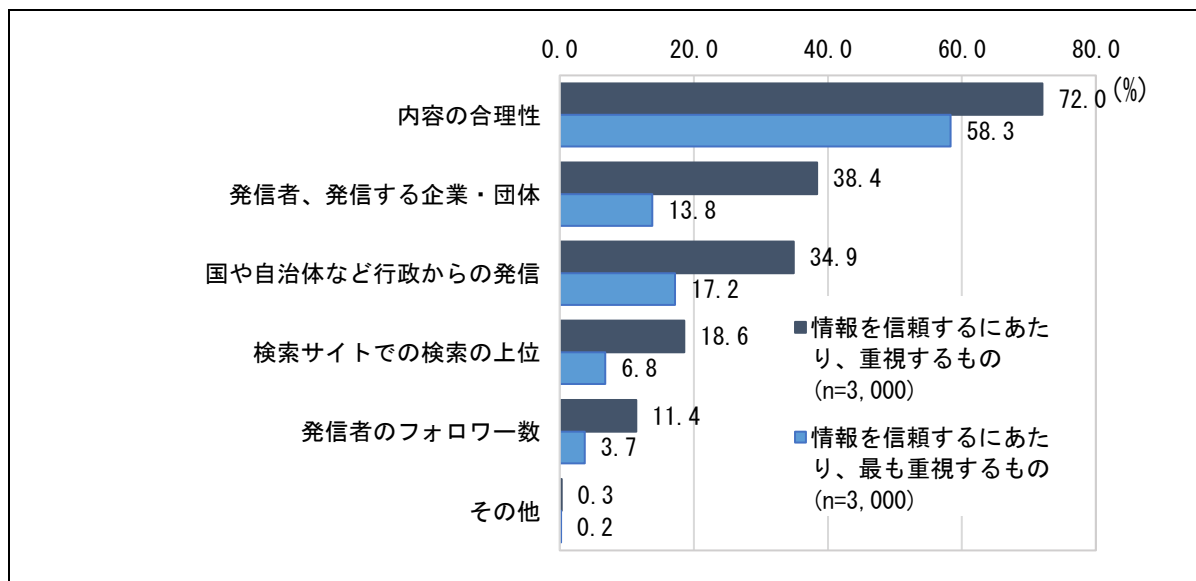
図表 2-7 子供の事故防止に関する情報の入手先（複数回答） Q12

インターネット上の子供の事故防止に関する情報の入手先は、「インターネットのニュース」が 59.9%と最も多くを占め、次いで「子育てに関する情報サイト」が 39.1%で、「Twitter」 28.3%、「Instagram」が 24.9%と以下 SNS が続いた。



図表 2-8 子供の事故防止に関する信頼している情報（複数回答） Q13

インターネット上の子供の事故防止に関する信頼（参考に）している情報は、「家族・友人・知人などの発信」が46.3%と最も多く、次いで「国や自治体など行政の発信」35.7%、「製品や保育の専門家、学識経験者による発信」が31.0%、「おすすめやトレンド、ニュース等で目にした企業・団体の発信」が27.8%、「検索で上位に表示されたSNSやウェブサイトの発信」が26.9%であった。「家族・友人・知人などの発信」の次に、行政や専門家による発信が多い結果となった。



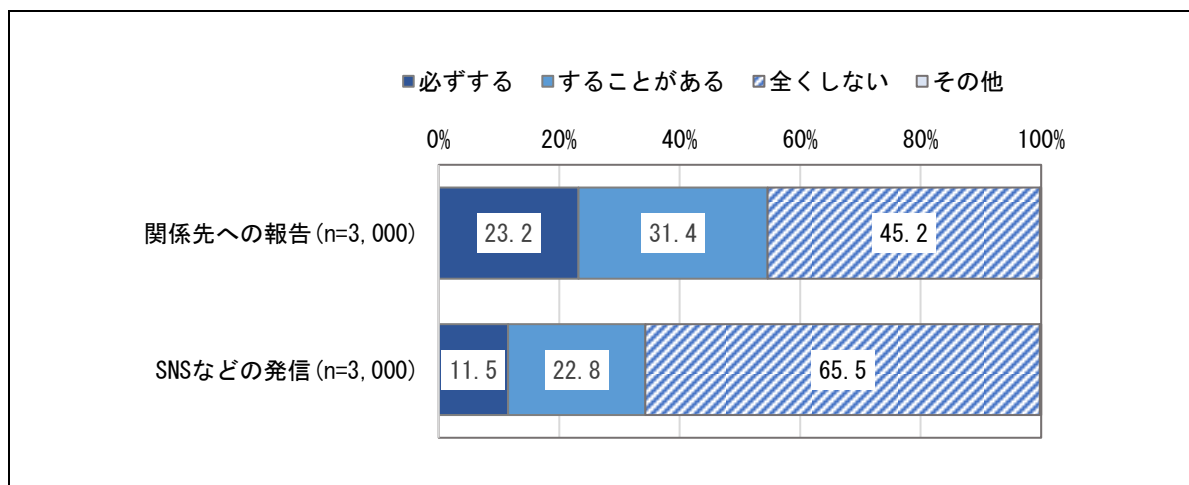
図表 2-9 子供の事故防止に関する情報の信頼にあたり重視するもの Q14Q15

子供の事故防止に関する情報を信頼（参考に）するにあたり、重視するものは、「内容の合理性」³が72.0%と最も多く、次いで「発信者、発信する企業・団体」が38.4%、「国や自治体など行政からの発信」が34.9%であった。

この中で、最も重視するものは「内容の合理性」が58.3%と最も多く、次いで「国や自治体など行政からの発信」が17.2%、「発信者、発信する企業・団体」が13.8%であった。

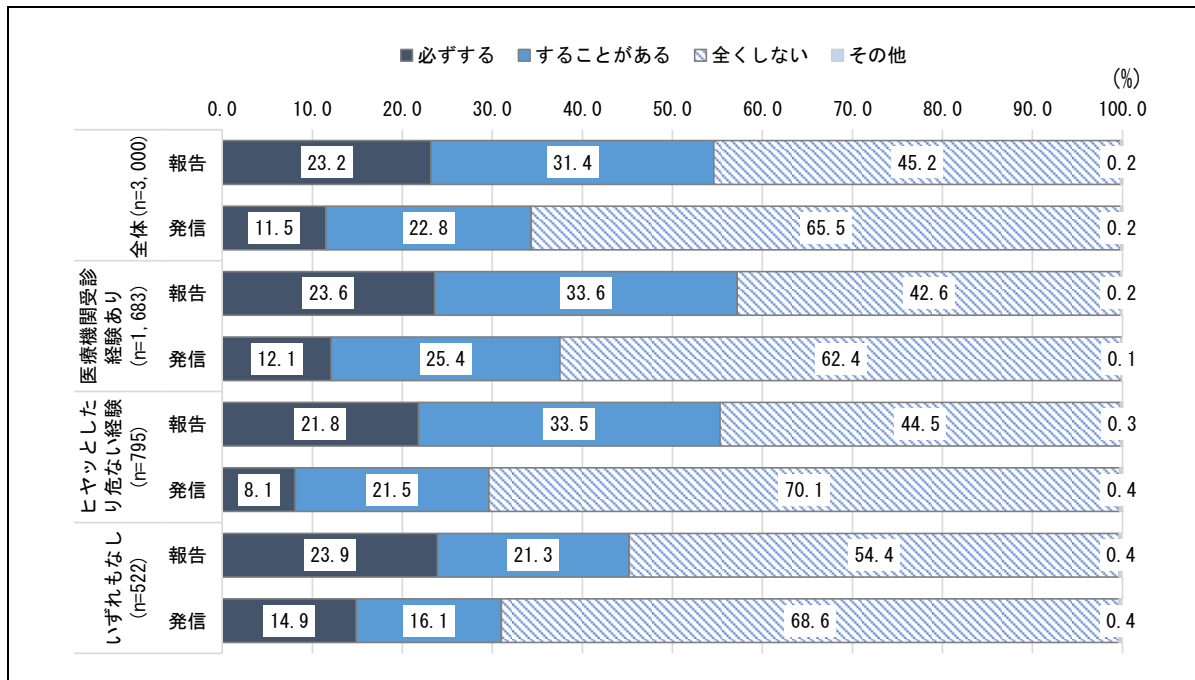
³ 「内容の合理性」とは、回答者が考える情報の内容の合理性であり、必ずしも客観的な合理性を意味しない。

3 子供の事故に関する保護者からの情報発信の実態



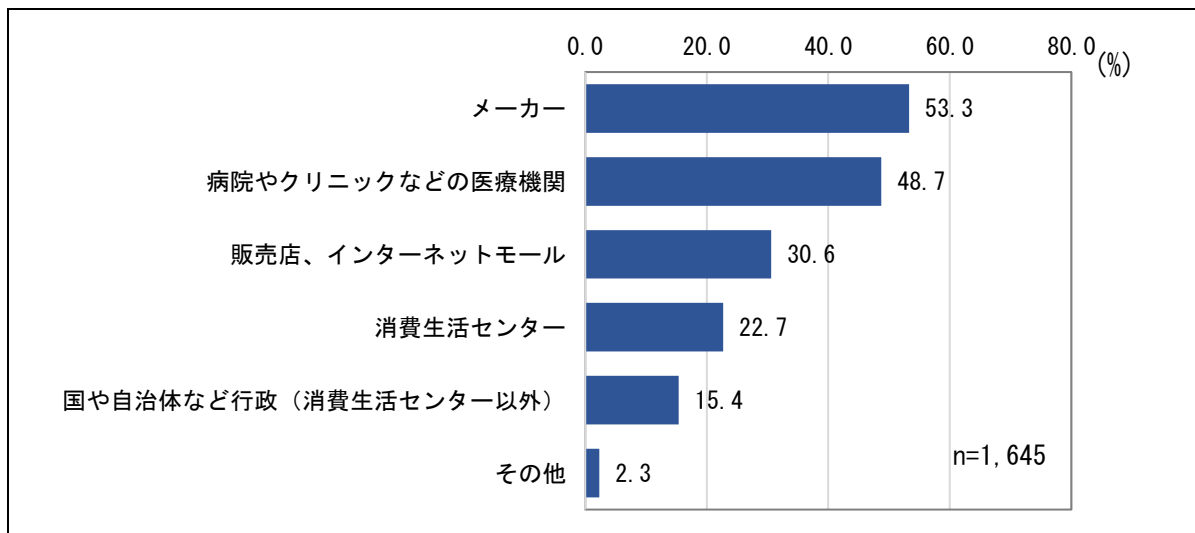
図表 3-1 子供の事故等の関係先への報告や SNS での発信（単一回答）Q16

子供が事故にあったり、あいそうになった時、関係先に報告したり、SNSなどで発信するかどうかについては、以下の結果となった。関係先への報告は、「全くしない」が45.2%と最も多く、次いで「することがある」が31.4%、「必ずする」が23.2%であった。SNSなどの発信は、「全くしない」が65.5%と最も多く、次いで「することがある」が22.8%、「必ずする」が11.5%であり、報告に比べて発信する割合の方が小さい傾向であった。



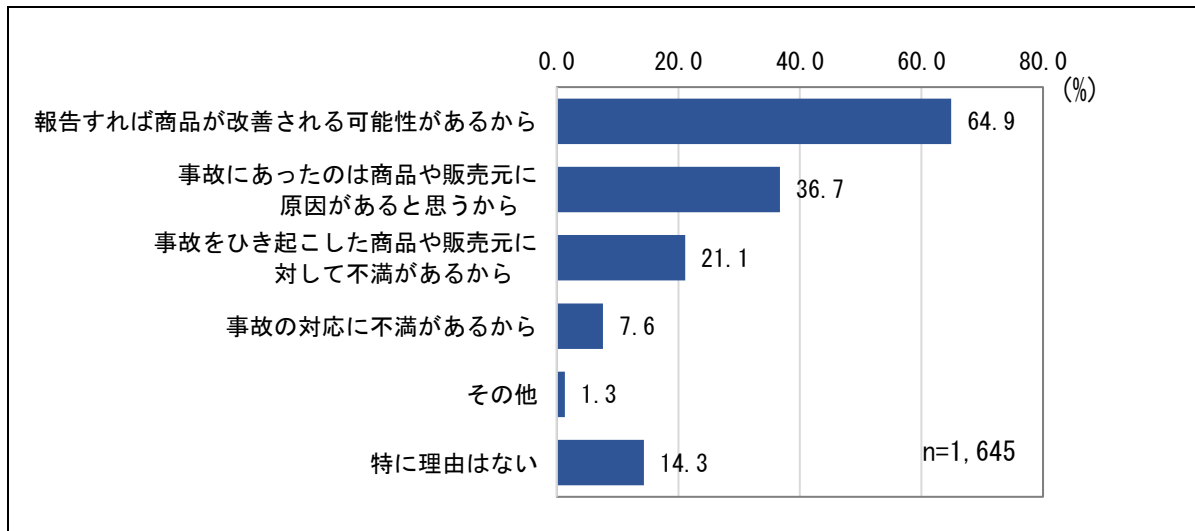
図表 3-2 事故経験の報告・発信 Q1×Q4×Q16

医療機関の受診経験やヒヤッとしたり危ない経験の有無と事故にあったり、あいそようになった時に関係先に報告、または SNS での発信をするかどうかについて尋ねたところ、『する』（「必ずする」＋「することがある」）との回答は医療機関受診経験者が最も多くなっている（報告 57.2%、発信 37.5%）。



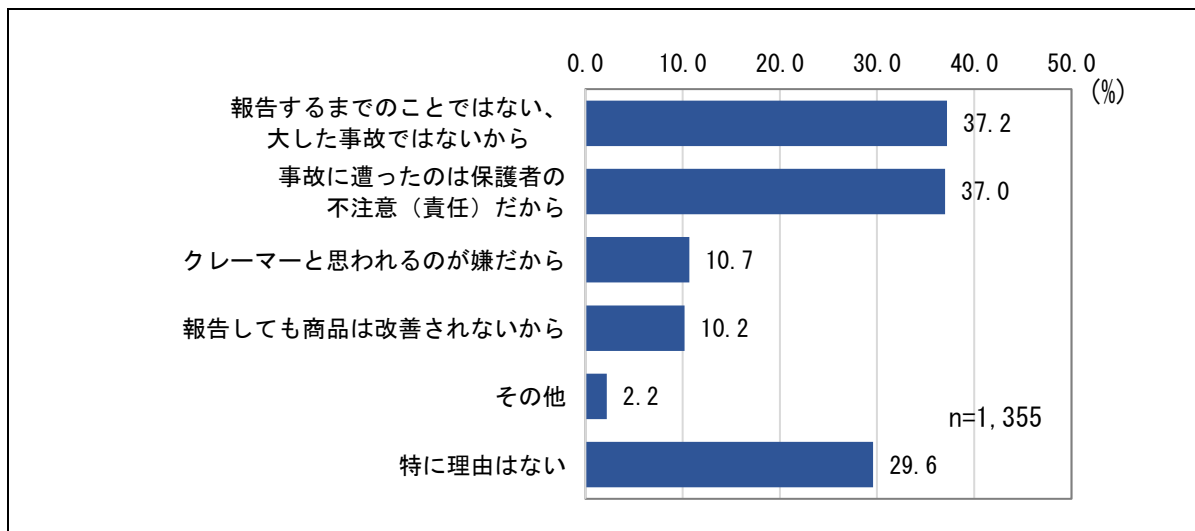
図表 3-3 商品等による事故の場合の報告先（複数回答）Q17

Q16 で関係先への報告を「必ずする」、「することがある」または「その他」と回答した人の商品等による事故の場合の報告先は、「メーカー」が 53.3%と最も多く、次いで「病院やクリニックなどの医療機関」が 48.7%、「販売店、インターネットモール」が 30.6%であった。



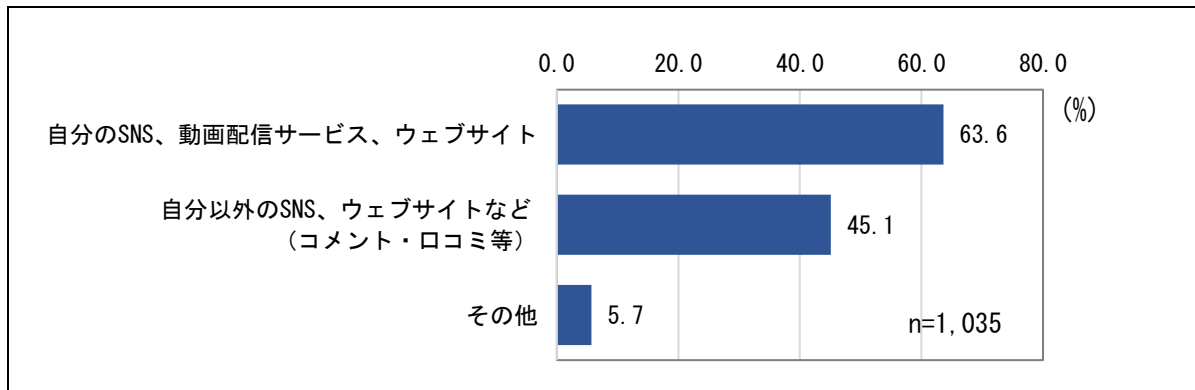
図表 3-4 商品等による事故の報告をする理由（複数回答）Q18

関係先への報告をする理由は、「報告すれば商品が改善される可能性があるから」が 64.9%と最も多く、次いで「事故にあったのは商品や販売元に原因があると思うから」が 36.7%、「事故をひき起こした商品や販売元に対して不満があるから」が 21.1 %であった。



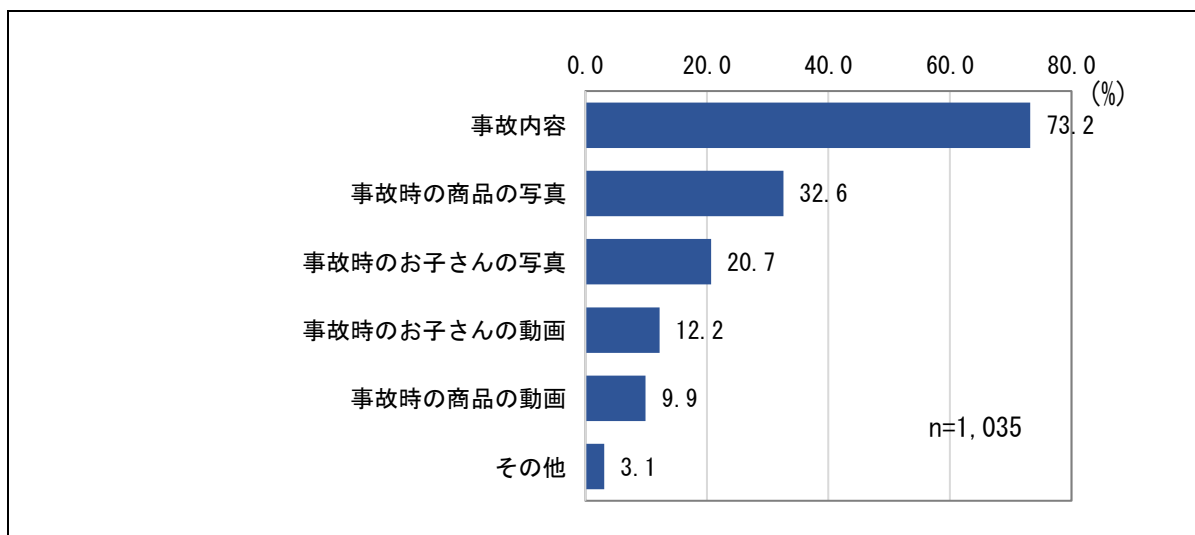
図表 3-5 商品等による事故の報告をしない理由（複数回答）Q19

Q16 で関係先への報告を「全くしない」と回答した人のしない（しなかった）理由は、「報告するまでのことではない、大した事故ではないから」が 37.2%と最も多く、「事故に遭ったのは保護者の不注意（責任）だから」が 37.0%とほぼ同数となり、次いで「特に理由はない」が 29.6%であった。



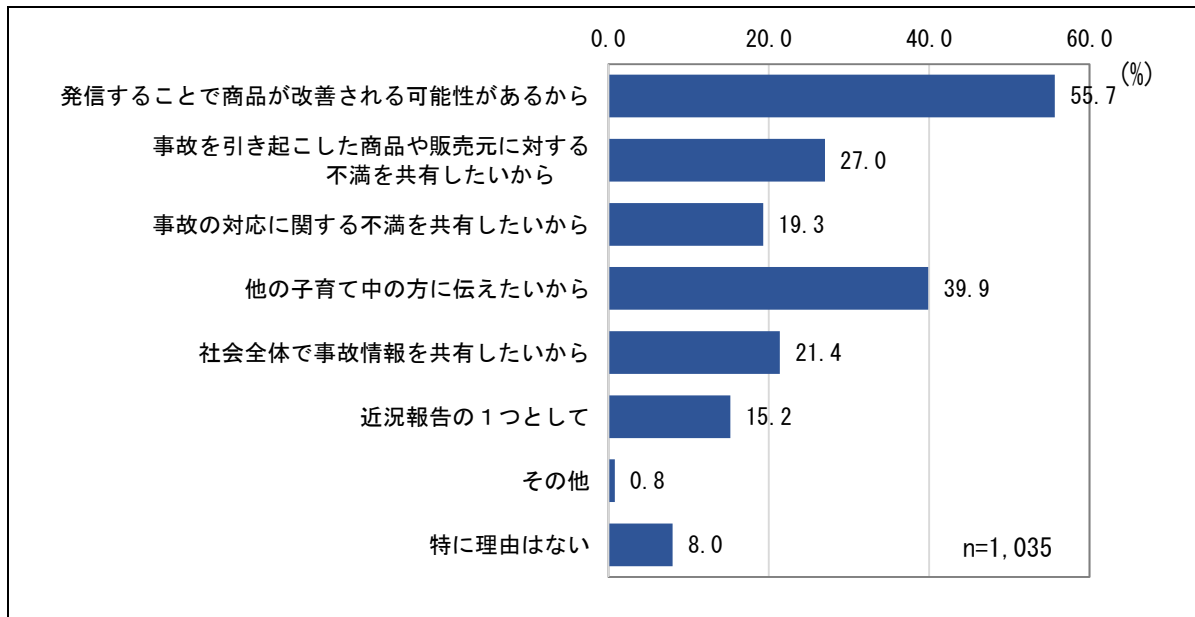
図表 3-6 商品等による事故の SNS などでの発信先 (単一回答) Q20

Q16 で SNS などでの発信するかどうかに対し、「必ずする」、「することがある」または「その他」と回答した人の発信先は、「自分の SNS、動画配信サービス、ウェブサイト」が 63.6%、「自分以外の SNS、ウェブサイトなど (コメント・ロコミ等)」が 45.1%であった。



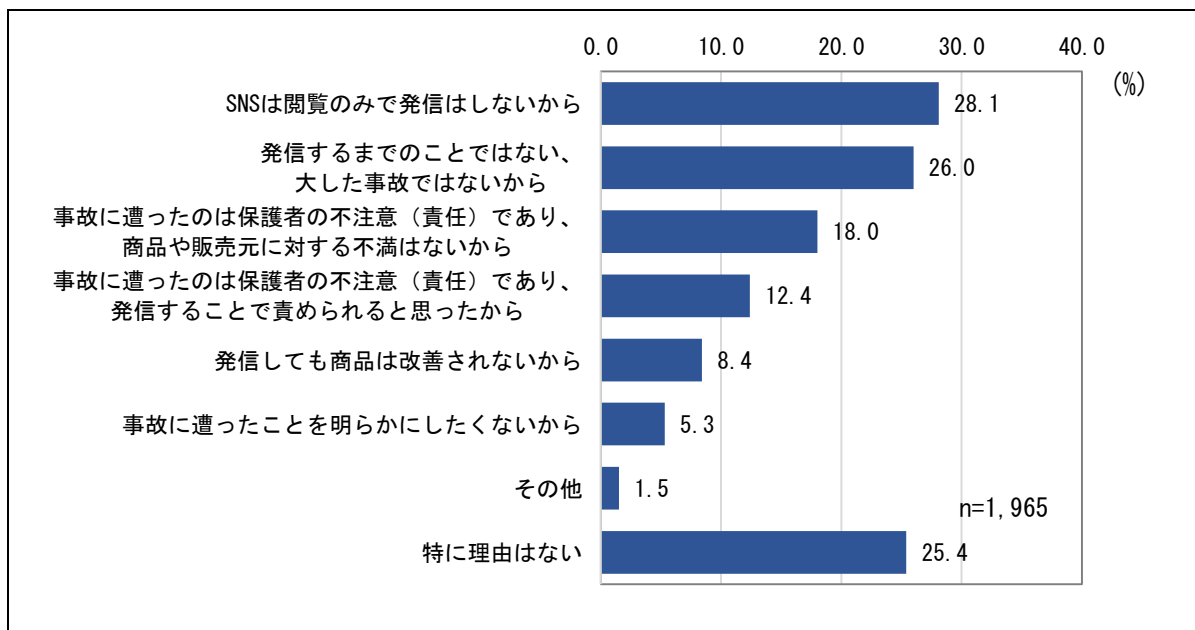
図表 3-7 商品等による事故の SNS などでの発信内容 (複数回答) Q21

Q16 で SNS などでの発信するかどうかに対し、「必ずする」、「することがある」または「その他」と回答した人の発信する内容については、「事故内容」が 73.2%と最も多くを占め、次いで「事故時の商品の写真」が 32.6%、「事故時のお子さんの写真」が 20.7%であった。



図表 3-8 商品等による事故の発信を SNS などとする理由（複数回答） Q22

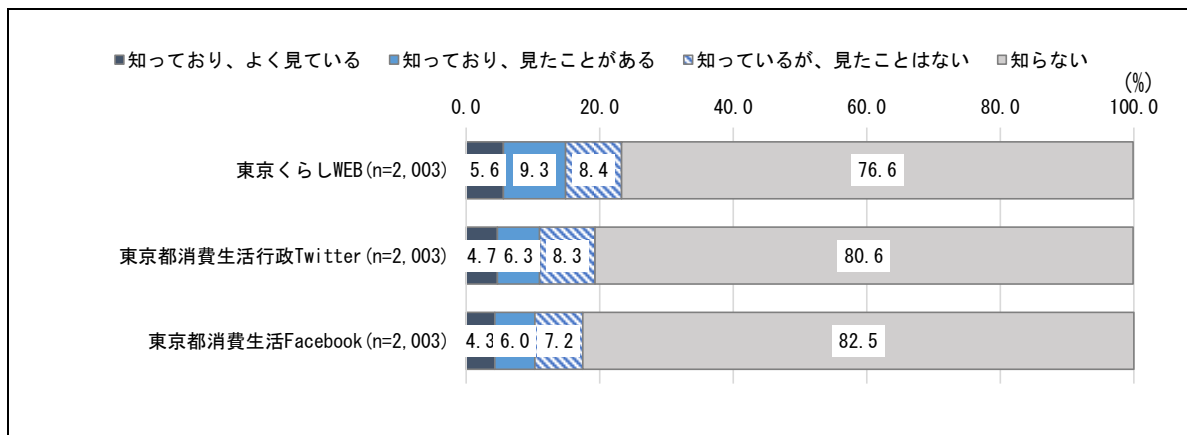
Q16 で SNS などでの発信するかどうかに対し、「必ずする」、「することがある」または「その他」と回答した人の発信（した）理由は、「発信することで商品が改善される可能性があるから」が 55.7%と最も多く、次いで「他の子育て中の方に伝えたいから」が 39.9%、「事故を引き起こした商品や販売元に対する不満を共有したいから」が 27.0%であった。



図表 3-9 商品等による事故の SNS などでの発信をしない理由（複数回答） Q23

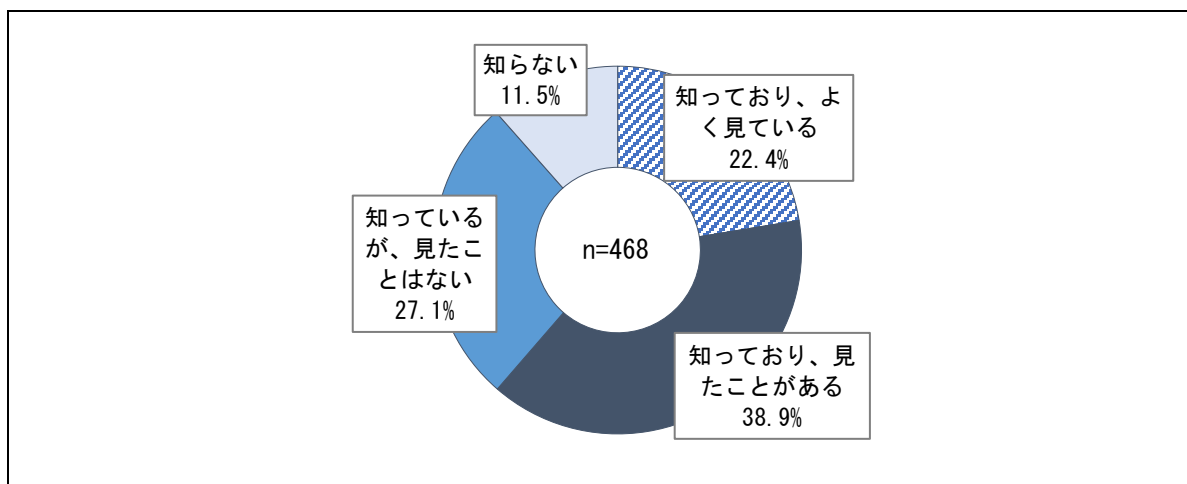
Q16 で SNS などでの発信するかどうかに対し、「全くしない」と回答した人の発信しない（しなかった）理由は、「SNS は閲覧のみで発信はしないから」が 28.1%と最も多く、次いで「発信するまでのことではない、大した事故ではないから」が 26.0%、「特に理由はない」が 25.4%とほぼ同数となった。

4 行政・事業者団体による主要なウェブサイトなどの認知度



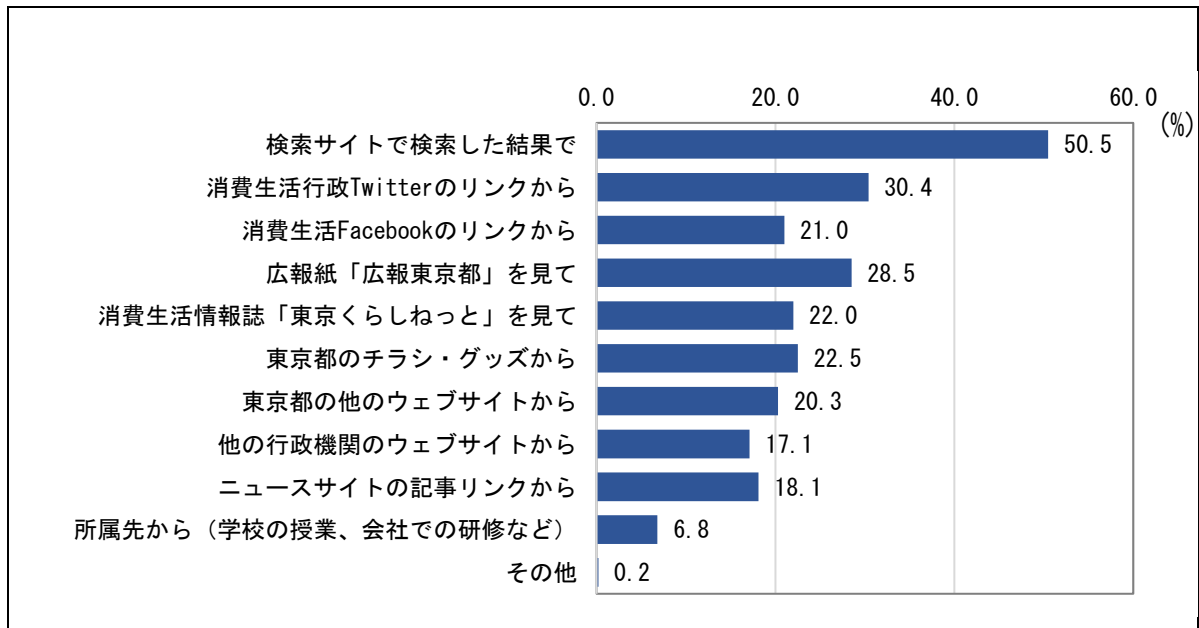
図表 4-1 東京都の消費生活行政に関する情報発信の認知度（単一回答）Q24

東京都生活文化スポーツ局消費生活部が発信している暮らしに関わる情報発信の認知については、「東京暮らし WEB」、「東京都消費生活行政 Twitter」、「東京都消費生活 Facebook」とも、約8割の回答者が「知らない」とのことであった。



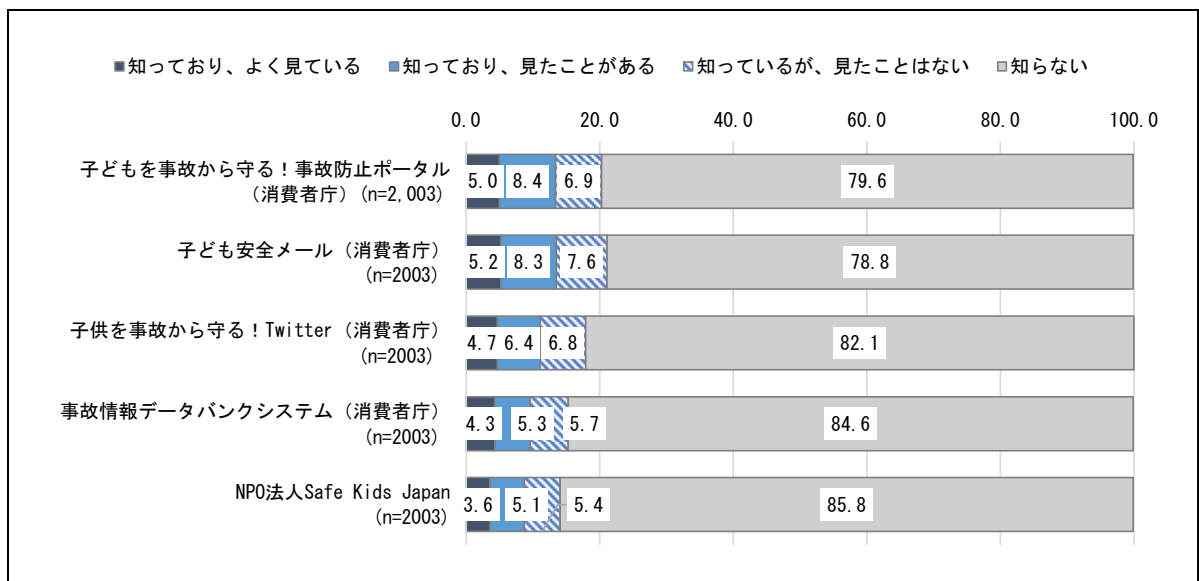
図表 4-2 「東京暮らし WEB」「暮らしの安全」サイトの認知度（単一回答）Q25

「東京暮らし WEB」を見たことがある回答者のうち、「暮らしの安全」サイトがあることを知っているのは、「知っており、よく見ている」(22.4%)「知っており、見たことがある」(38.9%)「知っているが、見たことはない」(27.1%)を合わせると88.4%であった。一方、「知らない」は11.5%であった。



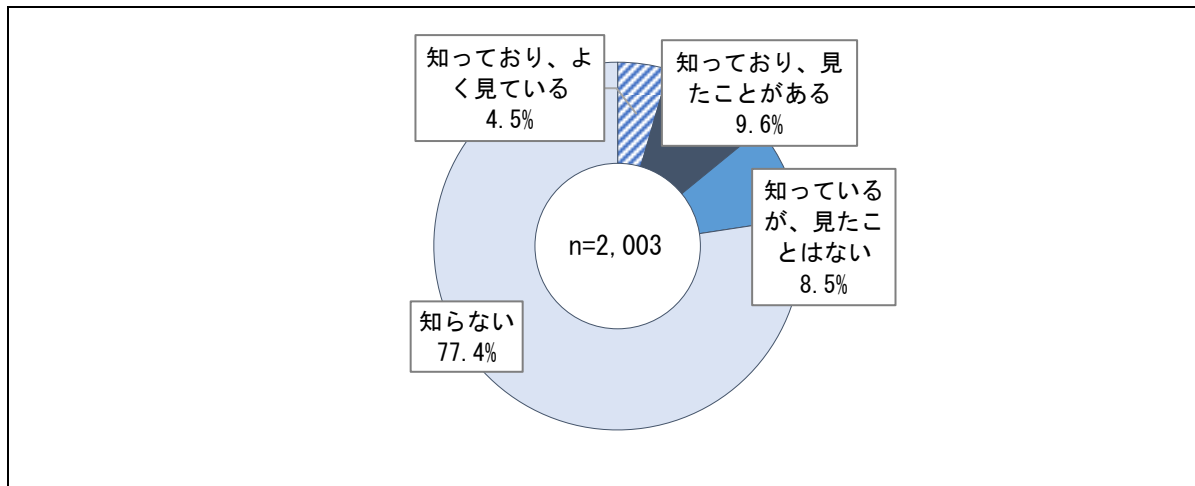
図表 4-3 「くらしの安全」サイトの閲覧契機（単一回答）Q26

「東京くらし WEB」「くらしの安全」サイトを見た契機は、「検索サイトで検索した結果で」が最も多く 50.5%、次いで「消費生活行政 Twitter のリンクから」30.4%、「広報紙『広報東京都』を見て」28.5%であった。



図表 4-4 子供の事故防止や安全に関するウェブサイトや SNS の認知度（単一回答）Q27

子供の事故防止や安全に関するウェブサイトや SNS の認知について尋ねたところ、8割程度の回答者が「知らない」としており、「知っている、よく知っている」は 5%程度にとどまった。

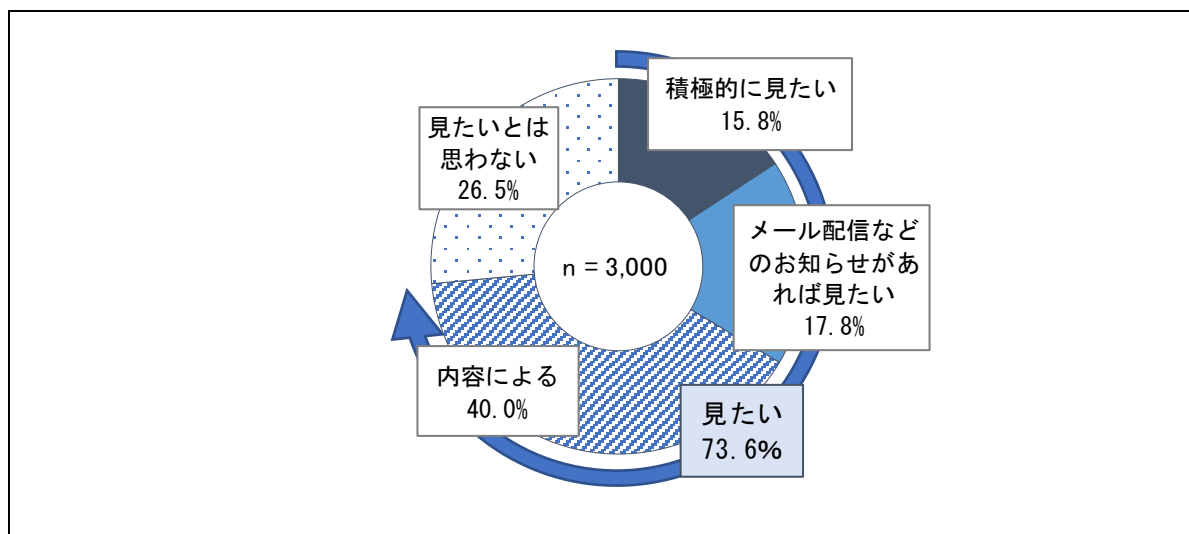


図表 4-5 「キッズデザイン」の認知度（単一回答）Q28

特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が発信しているウェブサイト、「キッズデザイン賞」、「キッズデザインマーク」のいずれかの認知について、「知らない」が 77.4%であり、「知っており、よく見ている」は 4.5%であった。

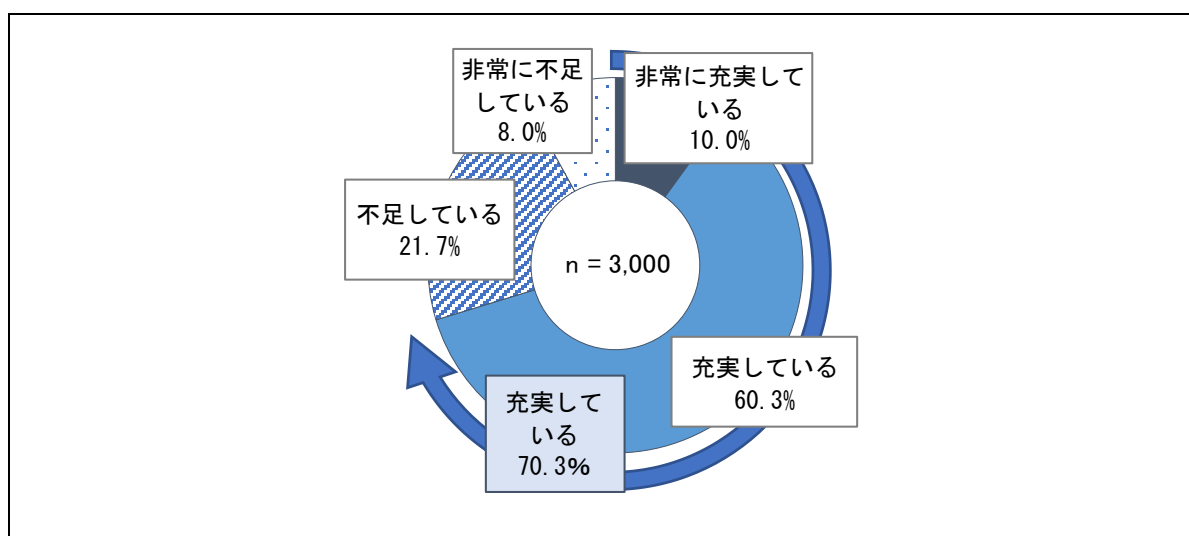
5 構築中のプラットフォームの評価

回答者に構築中のプラットフォームのテストサイトを閲覧させた後、サイトの印象等に関する質問を行った。



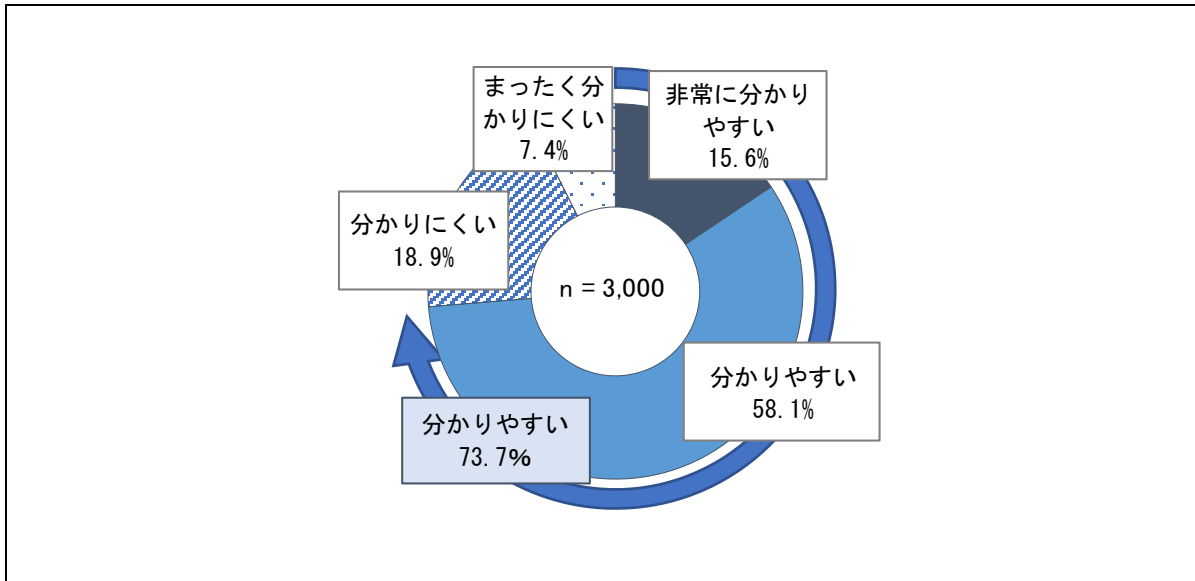
図表 5-1 リポートしたいか（単一回答） Q29

プラットフォームのテストサイトをまた見たいかの問いに、「積極的に見たい」(15.8%)「メール配信などのお知らせがあれば見たい」(17.8%)「内容による」(40.0%)を合わせると 73.6%であった。一方で、「見たいとは思わない」は 26.5%であった。



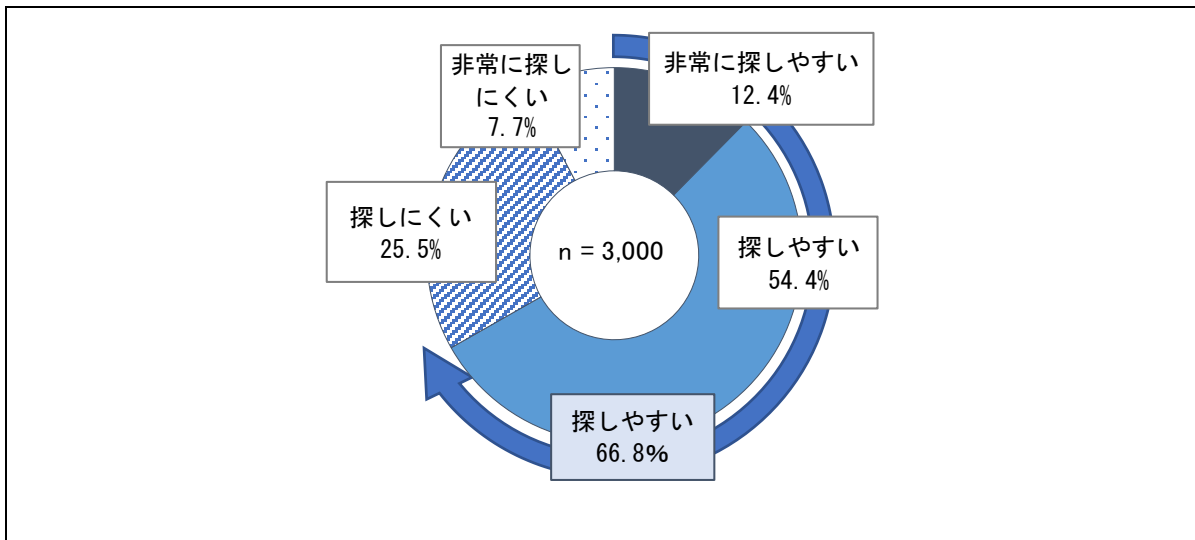
図表 5-2 内容・コンテンツの充実度（単一回答） Q30

内容・コンテンツについては、「非常に充実している」(10.0%)「充実している」(60.3%)を合わせると 70.3%であった。一方、「不足している」(21.7%)「非常に不足している」(8.0%)であった。



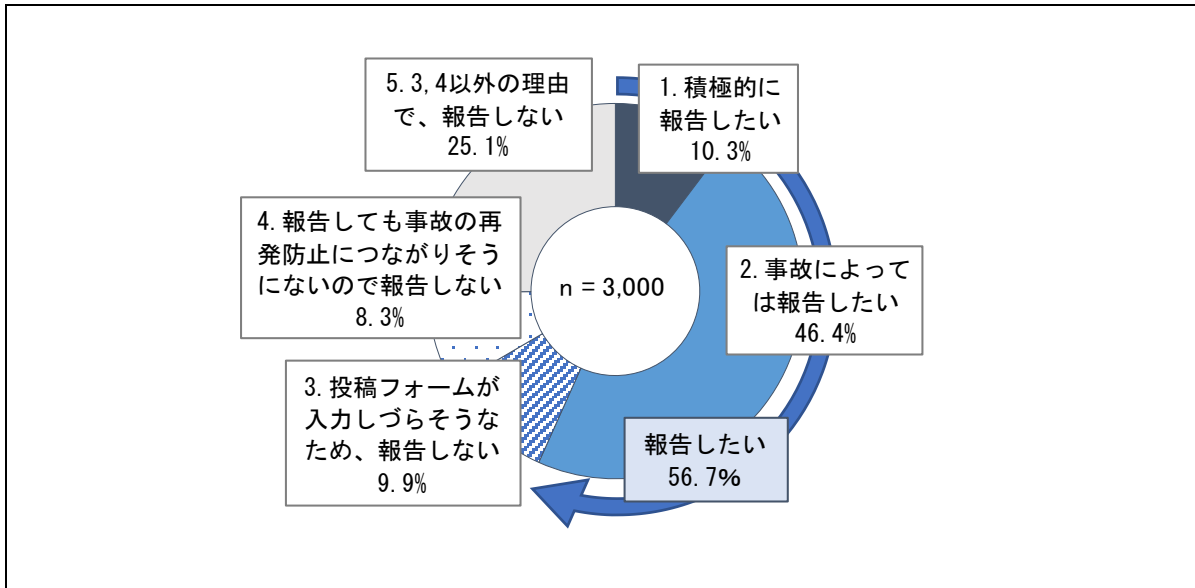
図表 5-3 デザイン・レイアウトの評価（単一回答）Q31

デザイン・レイアウトについては、「非常に分かりやすい」（15.6%）「分かりやすい」（58.1%）を合わせると 73.7%であった。一方、「分かりにくい」（18.9%）「まったく分かりにくい」（7.4%）を合わせると 26.3%であった。



図表 5-4 情報検索の評価（単一回答）Q32

情報の探しやすさについては、「非常に探しやすい」（12.4%）、「探しやすい」（54.4%）を合わせると 66.8%であった。一方、「探しやすい」（25.5%）「非常に探しやすい」（7.7%）を合わせると 33.2%であった。



図表 5-5 事故事例の投稿フォームの利用（単一回答） Q33

サイト内に事故事例の投稿フォームを設けた場合、報告するか否かについては、「事故によっては報告したい」が46.4%と最も多く、次いで、「上記3,4以外の理由で、報告しない」が25.1%、「積極的に報告したい」が10.3%であった。

【主な自由記述】

Q29 あなたは、このサイトを見て、また見たいと思いますか。
『見たい』（積極的に見たい、お知らせがあれば見たい、内容による）
なかなか自主的に見る事ができないので、配信があると見るきっかけになって良いと思う。
わざわざネットで検索して見ないと思うけどお知らせだと気になれば見ると思う。
積極的にマメに見ることはないかもしれないが通知があれば見ようと思う
子供のけがなどは、とても不安になるので、情報収集したい。
子供の事故防止の事を今まで積極的に情報収集してこなかったから
子供の用品を買ったり借りたりする前に参考に見たいと感じたから。
無料ダウンロードカレンダーなど、子育てや生活に役立ちそうだから
サイトに温かみと親しみを感じる。デザインと配色が好みで、字体も読みやすい。ひらがなのところが子供でも読みやすそう。コンテンツが多すぎず情報量がちょうどよさそう…けど投稿が増えればごちゃごちゃしてしまう？
積極的に見ると依存してしまい子供のやる事全てにストップをかけてしまいそう。メール配信も欲しいのはこんな時どうすればいいかとかの情報なら見る
まだテスト段階ですが、わかりやすい作りのサイトで目を通さなくてはという気持ちになるからです。
一般人から実際にあった事故例の投稿がまとめて見られるから
危険な事故が起きた時、ユーザー間で情報共有できるところが便利だと感じた。自分が報告することで、商品改善につなげることもできそう
家庭や公園などで実際に起こった事故を紹介したり、どうすれば防げたのか、どういった工夫が必要かなどを紹介したり、意見を出せるような場があると見てみたいと思う
『見たいとは思わない』
子供も少し大きくなってきたので、小さな子供向けの内容ばかりでなく、大きな子供向けの内容も多く含まれていたら見ると思うので、内容によると思ったから
小さいお子さん対象の内容がメインといった印象。もううちはあまり対象ではなさそうで。
特にここを見て知りたい！と思うことがないため、他の情報源で足りそうだなと思ったため
どこをクリックしたら自分の気になる情報が得られるのかわからなかったのでは
縦長にづらづらと並んでいて見にくい
プラットフォーム改良につながる意見
日常的に読みたいと感じるサイト構成になっておらず、内容的に気になるものがあった際に読みたいと感じたから
スクロールしなくてもわかるサイトの方がパッと見やすい
怪我、事故の情報がわかり注意できる。ただし、投稿数が一定以上ある場合
事件事例や注意点等が分かりやすいか
事件事例をサイトからでなく、Twitter、Instagramからの内容も載って情報がたくさんあるようならまた見たいと思う

有事の際に知りたいのは信頼性の高い情報。ただ書き込んでそれを見た人からのコメントを信頼できるとは思えない。
とても可愛いく見やすいサイトですが、閲覧場所が多すぎたりすると本当に自分に必要な情報にたどり着かない可能性もあるので、使いやすければ見続けられると思う。
共有しやすそうなので使いたいが存在を忘れてしまうので定期的にメールもらえるとありがたいです。

Q30 あなたは、このサイトを見て、内容・コンテンツについてどのように感じましたか。
『充実している』
あまり見たことの無い新しい内容だと感じた
怪我した時の対応だけでなく、怪我をしそうな行動や安全対策など幅広く発信していて便利だと思うから。
事例や論文など多くの情報にアクセスできるので
事故の事例紹介がわかりやすい。欲しい情報の場所がわかりやすい
写真があったりそれぞれ伝えたい知りたいことを共有できるのは良いと思う
カテゴリー分け、動画による解説など見やすく配慮がなされている。
子供が怪我などをしないように注意すべき点が見やすくなっているので、気をつけたい親には良いコンテンツだと思う
子供の事に関して知りたい事はこれで調べれば出てくるというサイトは便利だと思います。
『不足している』
「けがをしたよ」などは分かりやすいのに急に「safe goods」と言われてもなんのことだか分からない
ターゲットが幼児なのかなんなのかハッキリしない。どういう情報がここで手に入るのかが分かりづらい。
ちょっといろいろ項目があって、どこを見ていいか分かりづらい
英語と日本語がごっちゃなので、統一感がない
プラットフォーム改良につながる意見
デザイン重視で分かりやすいが詳細が不足している。検索機能を充実してほしい。

Q31 あなたは、このサイトを見て、デザイン・レイアウトをどのように感じましたか。
『分かりやすい』
カラーに温かみを感じる。字体が柔らかい印象。親しみがあっていい。忍者が可愛い。
パッとどこに何があるか見て分かりやすい、色使いが安心する
色合いや文字の大きさなど適度であり見やすさが感じられるから。
カラフルで黒の文字がみやすくデザインは良いと思います、
わかりやすくシンプルにまとめている
文字が大きく、フォントや色使いが見やすい。
『分かりにくい』
もう少し色味をシンプルにした方がいい。
色が多くて目がチカチカする
かなりスクロールしないと全項目が見えないのでわかりにくい
項目が多く、慣れないと欲しい情報を得にくいと思いました
色分けしてわかりやすいが、情報が多くてわかりにくい
PCから閲覧しているが、縦に長いレイアウトなので欲しい情報を探すのに若干手間取った
「各種資料」、「その他」など、大雑把な分け方が多く、求める情報を探すためにはどこから見ればいいのかよく分からない。
safe など英語を使わず、安全と記載し日本語に統一したほうがわかりやすいと思う
少し見づらい。ヒヤッととか書いてあるけどそれだけでは何なのかが分かりづらいです。
プラットフォーム改良につながる意見
色分けして見やすいが、トップページ一番下まで行かないと選択できない項目があるので、プルダウン式の目次を上部につけて欲しい
デザインやレイアウトは見やすいが、ブロックタイトルや誰に向けたものかは、日本語での表記もしてほしい
メニューバー(左上)のメニューが少ないため、どんなコンテンツがあるのか分からない。HOMEとメニューが混ざっていてサイト全体を理解しにくい。(スマートフォンで閲覧しています)
横文字の意味が、コンテンツを開かないといまいちよくわからなかった
項目に safe good や safe kids と入れると、途端に内容が伝わりづらくなっている
最初の導線はスクロールしないで目的に合わせて出来た方が良いでしょう
上段の動く画面が少し見難い。あとこういう画面が重くて時間がかかる。

Q32 あなたはこのサイトを見て、情報の探しやすさについて、どのように感じましたか。
『探しやすい』
色使いがカラフルでわかりやすいのと、項目もシンプルなので探しやすい。
カテゴリーごとに色分けされているのはわかりやすい
項目がカラーで分かれていて、どこにどんな情報があるかも文字からわかりやすいと思ったからです。
全体的にオーソドックスな配置なので、まずつまづくことはないと思います。カラーリングの良さが生きています。
『探しにくい』
項目が多くどこにどのような情報があるかパッとわかりにくい
スクロールしないと、該当する項目に辿り着けない
怪我の事例の検索タブがどこにあるかがわからなかった
「各種資料」、「その他」など、情報の分け方が大雑把で、どこを見れば目的の情報が見つかるかわかりにくいから。
シンプルで、どういう内容のコンテンツがあるのかはトップからは伝わりにくいと感じた
英語と日本語がごっちゃなので、どこに何があるのか探しにくい
プラットフォーム改良につながる意見
トップページにメニューボタンや検索エンジンほしい
体の部位または、事故の種類から探せるようにしてはどうか。トップページでは、情報収集が目的のような内容になっていて、誰の為の何のサイトかわからない。

<p>Q33 このサイトでは、子供の事故の再発予防につなげるため、投稿フォームを設ける予定ですが、お子さんが事故にあった場合、報告しますか。</p>
<p>『報告したい』</p>
<p>同じような事故が起きるのを防ぐ効果になりそうだから</p>
<p>こういうフォームがあると少し気軽に使える気がする</p>
<p>個人に起こったことを共有することで誰かの役に立てるのであれば積極的に報告したい</p>
<p>気軽に投稿できそうだし、自分達の経験が誰かの役に立ちそうだから</p>
<p>専門家やブロガーなどの知識ひけらかしはたくさんあり、どれを参考にしたらいいかわからない。投稿者がパパママなら、我が子にもありうる！と危機感を感じますし、親近感もあり、こんなことあるんだと非常に参考になります。</p>
<p>『報告しない』</p>
<p>あまり意味がないように感じる</p>
<p>個人情報心配</p>
<p>そもそもネット上で投稿をしないから。</p>
<p>入力に手間がかかる。</p>
<p>やり方がわかりづらい</p>
<p>検証してから責任を持って掲載されていなそう</p>
<p>その他の意見</p>
<p>簡単に登録できるのならしてみたい</p>
<p>検索をしてまで、このサイトに上げるかは疑問。自分の投稿サイトにハッシュタグをつけた後、サイトに掲載される分にはまだ許容。</p>
<p>どう取り上げられるかで迷う。ただ単に投稿者のコメント主体だと、投稿者の被害者目線のような主観的な内容で溢れそうだし、他人がどう思うかも気になる。投稿内容がある程度きちんと第三者的にみても伝わるように編集され、かつ専門家のコメントなども添えられるのであれば。</p>

Q34 子供の事故やその防止について、感じることや考えていること、事業者（メーカーや販売者など）や行政への要望
事故事例・対処方法等の情報共有の必要性
事故があったら、事故の内容や防止策を教えて欲しい。
注意喚起するきっかけがほしいので年齢に応じた情報発信をしてほしい。
具体的な事故事例を知ると予防になるので、積極的に情報を出してほしい。
玩具での事故をもっと公開してもらいたい。こんな危険がある事を事故事例で説明書に記載して欲しい。（実際に思いもよらない行動で事故が起きるため）
地道に情報を発信していただくことを期待します。自身の子供が危ない経験をしたり、社会的に大きな出来事があったりしないかぎり、なかなかみずから情報を取得するために動くことはありません。アクセスしたときに、充実した情報がそろっていてほしいと思います。
何か事故が起こったときは、皆それぞれが発信することが、事故の再発防止につながるので大事なのではないかと考えています。
安全な製品・商品に関する意見
製品登録をして事故があればメール等で注意喚起するシステムにしてほしい。
安全性があるものは大切なので種類をたくさんだすより確実に安全なものを出してほしい。
対象年齢や誤飲への注意喚起などがパッと見でわかりやすいパッケージであるといいと思います。
発達障害児は視点をかえた安全対策が必要。親の負担も大きい。病院や行政からサポートグッズを無償提供して欲しいくらいです。
基本的には親が注意すべきものだと思いますが、壊れやすい素材であったり、予想外のことは起きると思うので、子供に与える際の注意点などが分かりやすく記載されていると助かると思いました。
情報の発信方法に関する意見
子供の安全を訴える TVCM などを流しても良いと思う。
TikTok やインスタなどの人気 SNS で効率よく発信してほしい
子供が目にする様なところに広告として記載など (YouTube)
積極的に収集しないと情報に触れられない。健診などの待ち時間に映像で流して欲しい。
事故防止のためのパンフレットなど身近なところにあるといい。手紙としてポストに入れて欲しい。
自分から情報を取りに行かないと思うがなんとなく流れてきた映像やニュースはみると思うので短い時間で流してほしい。
保護者の責任に関する意見
すべてが事業者が悪いわけではなく、保護者の不注意も多いと思う。
まずは親がよく注意して使いかた、遊び方をよく知ることが大切であると思います。
親がちゃんと見てないで起こる事故も多々ある。もっと親に注意喚起したほうが良い。

過剰な事故予防に対する懸念
事故は確かにこわいけれど、過剰になりすぎずにしたい。
安全に配慮しすぎて、公園がなんもできない場所になるのは避けてほしい。
子供がケガをするのはある程度はあたりまえだと思います。でも昨今は遊具が面白くないものばかりで残念です。
怪我をしたからといって、撤去する事が正しいとは思わない。多少の怪我を負いながら危ないと知ること大切だと思う。
子供を事故から守ることはもちろん大丈夫ですが、子供をのびのびとしたいことをさせることも大切です。過度な対策は、事故は防止できるかもしれませんが、子供の発育にデメリットがあることを十分に認識して、いろいろな施策をして欲しいです。
環境整備に関する意見
車道と歩道を完全に分離してほしい。
公共交通機関を使用する際に段差や階段の傾斜がきついと事故の可能性が上がってしまうので直してほしい。
歩道を自転車が走る危険性についてもっと検討すべき。自転車を運転するためには免許証を持たせる事や、自転車に対する罰則の強化をすべき。警察署の前でもスピード落とさず危険運転をする自転車を放っておく警察も信用出来ない。
子供が生活しやすい環境を作ってもらいたい。
行政・自治体に対する意見
行政の定期的な発信が欲しいです
事故防止グッズがあれば行政の方で無料配布などしてくれると大変ありがたい
はじめての育児で手探り状態ですが、SNSなどの情報は信用できないものも多いので気を付けています。メーカーや行政なら信頼できるので注意喚起などを促して頂けると嬉しいです。
親が注意して見守るのはもちろんですが、親の注意だけではどうにもならない、すり抜けるような事故が子供には起こるので、気を付けるべきポイントを行政、保健所などで周知してくれることやメーカーが子供に配慮した商品を販売すること、あらゆる分野が取り組むことが大事だと思います。
子供への教育に関する意見
子供達には危険察知能力や、想像力を身につけて欲しい。
事故が起こらないように日頃から目を光らせ、子供達に危険性を教える。
世間で何かあったら伝えているが、子供たちに正しく伝わっているのか理解しているのかが不明。具体的でわかりやすい伝え方を日々模索中。